

中部大学
創発学院年報
第 3 卷(2018 年度)



ANNUAL REPORTS OF
CHUBU UNIVERSITY
ACADEMY OF EMERGING SCIENCES

年報 Vol. 3 目次

巻頭言（院長 飯吉厚夫）	1
I. 概要	
1. 施設配置図.....	5
2. 組織.....	7
(1) 組織図	
(2) 職員一覧	
3. 予算概況（研究費）	10
4. 人事異動.....	11
5. 学術交流協定.....	11
II. 個人の研究教育活動	
1. 研究概要.....	13
2. 大型プロジェクト.....	21
3. 研究業績.....	23
III. 創発学院の研究教育活動	
1. 創発セミナー.....	51
2. 学術レクチャー.....	56
3. 学長コロキウム.....	57
IV. 社会貢献	
1. 創発シンポジウム.....	59
(1) 高校生対象特別講演会	
(2) JST 数学キャラバン 拡がりゆく数学 in 春日井	
(3) 創発学院 併設校対象特別講義	
2. 雑誌モンキーの刊行.....	62
V. 中部大学創発学院規程	67

▶ 卷頭言

中部大学創発学術院（英文名：Chubu University Academy of Emerging Sciences、英文略称：CUAES）の2018年度の年報をお届けします。年報は、当該年度の教育・研究・社会貢献の活動を記したものであり、自己点検報告書としての位置づけをしています。なお既刊の年報（2016年度と2017年度）については、創発学術院のホームページにて公開しています（<http://www.cuaes.jp/>）。ご参照ください。

大学という学びの場では、優れた研究こそが最良の教育だといえます。中部大学は、新たに学術の創発を掲げた学内外に開かれた高度な研究の場として、「創発学術院」を2016年4月1日に創設しました。「卓越した研究者を学内外から集めて、既存の領域を超えた、新しい学問の開拓と発信を中部大学からしていきたい」という趣旨です。その着想は、2015年3月の山極壽一京都大学総長との懇談に遡ります。中部大学と京都大学の国立私立の枠を超えた新しい形の連携を模索しました。その約定として、京都大学は高等研究院を、中部大学は創発学術院を、いずれも総長特区として同時に発足させることになりました。両部局で正式な連携協定書を取り交わし、松沢哲郎・森重文の京都大学特別教授2名を、同時に中部大学特別招聘教授としてお迎えして創発学術院が発足いたしました。

「創発」とは、物理学や生物学などで使われる用語であり、＜部分の性質の単純な総和にとどまらない特性が、全体として現れる＞という意味で使われます。別の言い方をすると、＜自律的な要素が集積し組織化することで、個々のふるまいを凌駕する高度で複雑な秩序やシステムが生じる現象、あるいは状態である＞ともいえます。自律的な要素を、「個々の研究者」とし、高度で複雑な秩序やシステムを「新しい学術分野」として読み替えてください。中部大学は創発学術院を拠点として、卓越した研究者を学内外から集め、既存の学問領域を超えた新しい学問の開拓と発信をしています。

本年度は創設3年目にあたります。初年度に、松田一希准教授と桑畑裕子特命助教の専任教員2名で始まりました。第2年度に、津田一郎教授、牛田一成教授、荒井迅教授の専任教授3名が加わりました。第3年度は、専任教員こそ増えませんでした。齋藤洋典教授と川上文人講師が中部大学の専任教員に採用されるとともに、創発学術院を兼務しました。また、川合伸幸（名古屋大学准教授）と細田衛士（慶應義塾大学）を、新たな客員教員として学外から招聘しました。本報告の2018年度末（2019年3月末日）時点で、院長と特別招聘教授2名に加えて、学長・石原修と副学長・辻本雅史が参加しています。さらに上述の専任教員5名、学内兼務教員6名（山本尚、安藤隆穂、福井弘道、平田豊、齋藤洋典、川上文人）、学外からの客員教員8名（松林公蔵、山口佳三、矢野誠、細田衛士、土井隆雄、幸島司郎、湯本貴和、川合伸幸）、そして事務職員

2名（小谷高秋、伊佐治公浩）の合計26名で創発学院の運営委員会を構成しています。なお、2019年度4月1日からは、川ノ上帆、林美里、土田さやかの3名がこれに新たに加わります。

人材がこうして結集した2018年度からは、重点課題として「数学」「野生動物学」「心の先端研究」の3つの専門部会を新たに立ち上げ、各専門分野の研究を発展させるとともに、分野を超えた学術的融合を目指した活動に取り組んでいます。

人材強化に加え、遺伝子実験などを実施することが可能な実験室の整備を進めました。16号館の最上階です。これにより、フィールド研究から、実験、実証研究、数学的な理論研究にわたる幅広い分野の先端的な萌芽研究を総合的に推進するための基盤が整いました。また野生動物学の学外拠点として、公益財団法人日本モンキーセンター（略称JMC、尾池和夫理事長）と覚書を締結して正式な交流を開始しました。2019年度当初からは、中部大学全体がJMC初の大学賛助会員となりました。これによって、法人傘下のすべての教職員・学生・生徒が無料で何度でも入園できます。JMCが本学のユニークな教育・研究拠点になったといえるでしょう。

研究面では、津田一郎教授を代表とする研究課題（脳領域／個体／集団間のインタラクション創発原理の解明と適用）が、科学技術振興機構のCREST領域で採択され継続しています。創発学院のかかげる目標の一つである、分野横断型の新たな学術の創発を推進するための第一歩となる大型研究プロジェクトです。採択率6.8%という難関を突破したのは、私立大学のなかでは中部大学だけでした。また昨年2017年度10月1日に赴任した牛田一成教授は、環境省の環境研究総合推進費・地球自然共生領域「ニホンライチョウ保護増殖に資する腸内細菌の研究」の代表を務めています。また飼育野生動物栄養研究会を立ち上げて、初代の会長として活躍しています。

創発学院の発足と同時に開始した「創発セミナー」のバリエーションとして「学術レクチャー」と「学長コロキウム」をおこない、年1回開催の「創発シンポジウム」や「数学キャラバン」を継続しています。創発セミナーは、異なる分野を専攻する学生、研究者間の意見交換の場として学内においても定着してきました。学長コロキウムでは、中部大学として国の大型研究費を申請していくために必要となる、国際連携および先端萌芽のための方策が議論されました。これを契機として、大型研究を組織する研究拠点タスクフォースが創発学院内に整備され、中部大学を研究大学として脱皮させていく新たな原動力となっています。なお、大人数となった組織の求心性を高めるために、年1回程度のスタディー・ツアーを実施することにしました。第1回として、本学が

有する新穂高山荘を利用した 1 泊 2 日の旅を実施し、東京大学宇宙線研究所の重力波観測施設等の見学を実施しました。

本年度も数々の栄誉がありました。特記すべきこととして、2018 年度の文化功労者のお一人に、山本尚教授（創発学術院学内兼務教授、総合工学研究所長、分子性触媒研究センター長）が選ばれました。山本教授はキラル・ルイス酸触媒の研究を世界に先駆けて提案してその有用性を実証し、不斉炭素骨格生成に有効な「分子性酸触媒」という新分野を拓いたのが顕彰の理由です。これで創発学術院は、松沢・森・山本という文化功労者 3 教授を擁する組織になりました。

創発学術院は、中部大学の良き伝統を受け継ぎ、不言実行の精神のもと、新しい学問の開拓と発信をしていきたいと思えます。皆様のご支援をお願いするとともに、今後とも温かく見守っていただきますよう、なにとぞよろしくお願いいたします。

院長 飯吉 厚夫



I. 概要

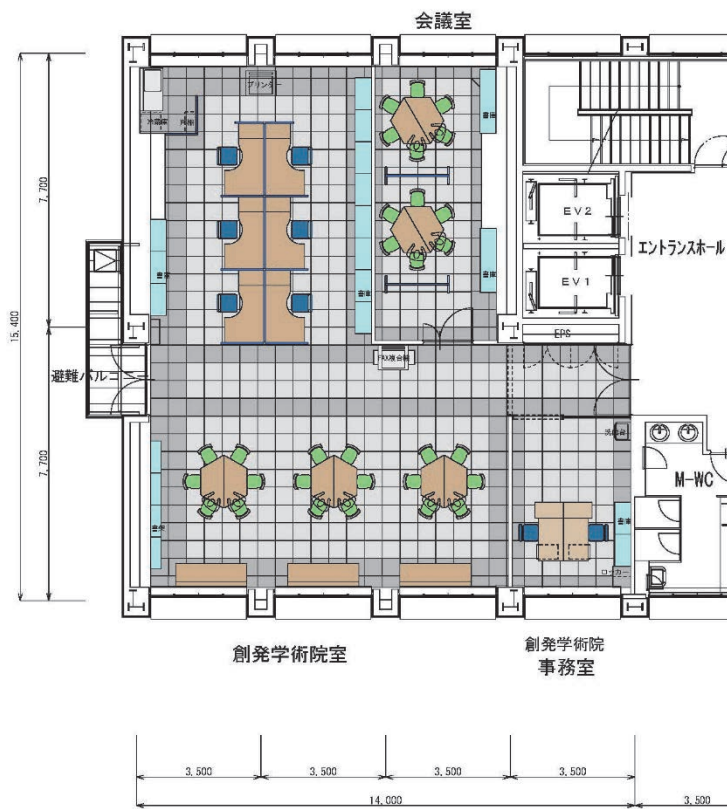
1. 施設配置図

所在地：愛知県春日井市松本町 1200 番地 16 号館 10 階

(16 号館外観)



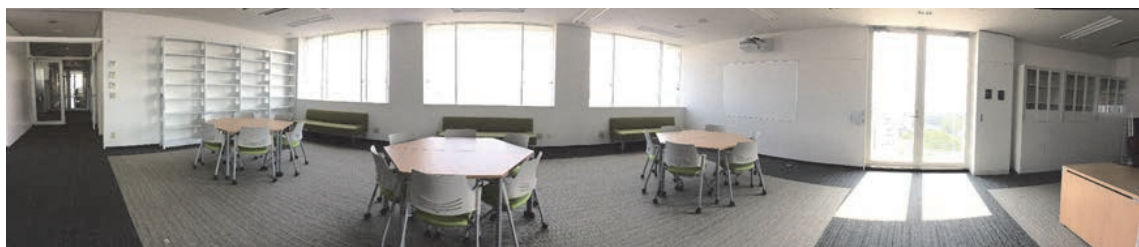
(キャンパス内地図)



(創発学院の部屋配置図)



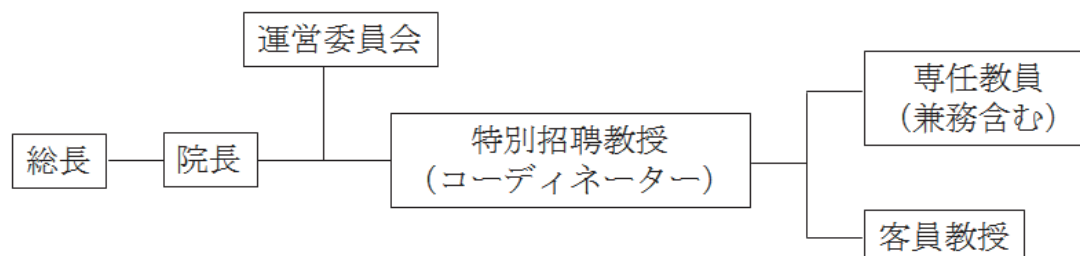
(創発学院オフィススペース)



(創発学院フリースペース)

2. 組織

(1) 組織図 (2019 年 3 月 31 日現在)



院長

飯吉 厚夫 (中部大学理事長、総長)

運営委員 (順不同)

松沢 哲郎 (京都大学高等研究院、中部大学運営委員長、中部大学特別招聘教授)

森 重文 (京都大学高等研究院、中部大学特別招聘教授)

石原 修 (中部大学学長)

辻本 雅史 (中部大学副学長)

山本 尚 (中部大学総合工学研究所長、分子性触媒研究センター長、教授)

安藤 隆穂 (中部大学中部高等学術研究所、教授)

福井 弘道 (中部大学中部高等学術研究所長、GIS センター長、教授)

齋藤 洋典 (中部大学人文学部、中部大学人間力創成総合教育センター副センター長、教授)

平田 豊 (中部大学工学部教授)

川上 文人 (中部大学人文学部講師)

松林 公蔵 (京都大学東南アジア研究所名誉教授、中部大学客員教授)

山口 佳三 (北海道大学元総長、名誉教授、中部大学客員教授)

矢野 誠 (独立行政法人経済産業研究所長、中部大学客員教授)

細田 衛士 (慶應義塾大学経済学部教授、中部大学客員教授)

土井 隆雄 (京都大学宇宙総合学術研究ユニット特定教授、中部大学客員教授)

幸島 司郎 (京都大学野生動物研究センター教授、中部大学客員教授)

湯本 貴和 (京都大学霊長類研究所長教授、中部大学客員教授)

川合 伸幸 (名古屋大学情報学研究科准教授、中部大学客員准教授)

津田 一郎 (中部大学創発学術院教授)

牛田 一成 (中部大学創発学術院教授)

荒井 迅 (中部大学創発学術院教授)

松田 一希 (中部大学創発学術院准教授)

桑畑 裕子 (中部大学創発学術院企画調整室、特命助教)

小谷 高秋 (中部大学法人事務局長)

伊佐治 公浩 (中部大学総務部長)

(2) 職員一覧（2019 年 3 月 1 日現在）

専任教員

津田 一郎	教授
牛田 一成	教授
荒井 迅	教授
松田 一希	准教授
桑畑 裕子	特命助教

兼務教員

山本 尚	中部大学総合工学研究所長、分子性触媒研究センター長、教授
安藤 隆穂	中部大学中部高等学術研究所、教授
福井 弘道	中部大学中部高等学術研究所長、GIS センター長、教授
齋藤 洋典	中部大学人間力創生総合教育センター副センター長、教授
平田 豊	教授
川上 文人	講師

学外教員

松沢 哲郎	特別招聘教授
森 重文	特別招聘教授
松林 公蔵	客員教授
山口 佳三	客員教授
矢野 誠	客員教授
細田 衛士	客員教授
土井 隆雄	客員教授
幸島 司郎	客員教授
湯本 貴和	客員教授
川合 伸幸	客員准教授

研究員

土田 さやか	期限付研究嘱託 (特定講師) (科研費・基盤 A/環境再生保全機構・環境研究総合推進費)
渡部 大志	期限付研究嘱託 (科研費・新学術領域)
Jong Hyeon Seo	期限付研究嘱託 (特定助教) (JST CREST)
豊田 有	期限付研究嘱託 (JST CREST)
平栗 明美	期限付研究嘱託 (JST CREST)
芝池 由枝	期限付研究嘱託 (JST CREST)
水野 千恵	期限付研究嘱託 (JST CREST)
澤田 晶子	日本学術振興会特別研究員
橋戸 南美	日本学術振興会特別研究員

事務員

井上 加帆里	契約事務補助員
霜鳥 希	派遣職員

3. 予算概況（研究費）

2018 年度（平成 30 年度）文部科学省・日本学術振興会科学研究費助成事業等
内訳一覧

研究種別	研究代表	金 額	研究課題
戦略的創造研究推進事業 （チーム型研究【CREST】）	津田 一郎	18,200,000	脳領域/個体/集団間のインタラクション創発原理の解明と 適用（インタラクション創発原理の開拓と機能分化への適用）
		（間接4,200,000）	
新学術領域研究	津田 一郎	13,000,000	ネットワーク自己再組織化の数理的基盤の創成
		（間接3,000,000）	
基盤研究(B)	津田 一郎	4,550,000	複合型視覚性幻覚の神経情報機構に関する数理モデル
		（間接1,050,000）	
基盤研究(A)	牛田 一成	9,100,000	熱帯アフリカにおける畜産由来薬剤耐性菌発生の実態把握と対 策の提案
		（間接2,100,000）	
環境省環境総合推進費	牛田 一成	12,189,000	ニホンライチョウ保護増殖に資する腸内細菌の研究
		（間接2,319,969）	
挑戦的研究(萌芽)	牛田 一成	2,210,000	スカベンジャー動物アフリカハゲコウの超生存能力を支える腸 内細菌とその応用可能性
		（間接510,000）	
研究分担(基盤B)	(代表:村山美穂)	700,000	ガーナ在来生物の家畜化に向けた飼育環境の整備
戦略的創造研究推進事業 （チーム型研究【CREST】）	松田 一希	19,112,600	脳領域/個体/集団間のインタラクション創発原理の解明と 適用（霊長類を対象とした、個体・集団のインタラクション創 発現象の観察と解析）
		（間接4,410,600）	
基盤研究(B)	荒井 迅	2,990,000 （間接690,000）	高次元におけるカオス発生メカニズムの解明とその応用
挑戦的研究(萌芽)	荒井 迅	1,950,000 （間接450,000）	化学反応経路網を理解するための新しい数学技法の開発
研究分担(挑戦的研究/萌芽)	(代表:石井豊)	100,000	VR を用いた 4 次元空間の可視化と複素力学系
研究分担(基盤研究A)	(代表:國府寛司)	500,000	力学系:理論と応用の新展開
若手研究	土田さやか	1,820,000 （間接420,000）	野生復帰個体の創出を目標とした「新規採食エンリッチメン ト」
研究分担(挑戦的研究/萌芽)	(代表:牛田一成)	700,000	スカベンジャー動物アフリカハゲコウの超生存能力を支える腸 内細菌とその応用可能性
日本学術振興会特別研究員奨励費	橋戸 南美	1,300,000	霊長類の採食適応背景にある味覚・解毒機能の相関進化関係の 解明
		（間接300,000）	
若手研究(B)	橋戸 南美	1,326,671	葉食適応したコロブス亜科の味覚・解毒分子基盤の進化機構の 解明
		（間接210,000）	
日本学術振興会特別研究員奨励費 (H29繰越分)	澤田 晶子	880,000	竹食および土食がジェントルキツネザルの腸内細菌に及ぼす影 響の検証
日本学術振興会特別研究員奨励費	澤田 晶子	1,430,000	竹食および土食がジェントルキツネザルの腸内細菌に及ぼす影 響の検証
		（間接330,000）	
日本学術振興会特別研究員奨励費	CARRETERO- PINZON	800,000	霊長類の生息地断片化の評価：糞分析からの新たな試み

4. 人事異動

職名	氏名	年月日	内容	備考
兼務教員	齋藤 洋典	2018/4/1	兼務	中部大学人文学部
兼務教員	平田 豊	2018/11/1	兼務	中部大学工学部
兼務教員	川上 文人	2018/4/1	兼務	中部大学人文学部
客員教授	細田 衛士	2018/4/1	兼務	慶應義塾大学経済学部
客員教授	湯本 貴和	2018/4/1	兼務	京都大学霊長類研究所
客員准教授	川合 伸幸	2018/4/1	兼務	名古屋大学情報学研究科

5. 学術交流協定

締結日	締結機関
2018/7/10	ガーナ大学
2018/11/11	公益財団法人日本モンキーセンター
2018/12/1	マレーシア・サバ州森林局 (創発、中高研との三者間)

▶ Ⅱ．個人の研究教育活動

1. 研究概要

(1) 松沢 哲郎

チンパンジーとヒトを主な対象とした比較認知科学の研究をおこなった。コンピュータ課題および対面課題による認知研究では、0 から 35 までの数系列の学習と記憶、色と文字の対応、物の操作を通じた行為の文法を研究した。野外研究としては、西アフリカ・ギニアのボッソウと東隣のニンバ山で野生チンパンジーの行動と生態を調査し、「緑の回廊」と呼ぶ森林再生事業に取り組んだ。その他に、中国の雲南キンシコウの調査を前年度と同じ麗江近郊の老君山でおこなった。ポルトガルのアルガ山の野生馬と対比するために都井岬の野生馬の調査を実施し、ウマ学 (Equinology) の創出を展望した。なお、ブータンへの 4 回目の渡航を果たし、第 4 代国王に謁見して GNH に基づく環境教育について見聞を深めた。研究成果を『分かちあう心の進化』(岩波書店) にまとめた。

(2) 森 重文

代数幾何は、代数多様体という代数的な図形を研究する。代数多様体は爆発という操作で酷似した(双有理同値な)代数多様体を幾つでも作ることが出来る。双有理同値なものに共通した性質を研究するのが双有理幾何である。その中心的位置にある極小モデル理論は、与えられた代数多様体に基本的な変換を施し、極小モデルなどの出来るだけ簡単な代数多様体にして研究する。3 次元では理論は完成しているが、4 次元以上では完全には完成していない。森は 2 次元と同程度に 3 次元も理解できるように、その基本的な変換を具体的に分類する研究を行っている。2018 年度はそのうち、非ゴレンシュタイン点が 1 点しか現れない 3 次元変換の分類全体の概説と具体例の構成を出版した。

(3) 辻本 雅史

これまで「知の伝達メディア」という視点から、おもに日本近世の学問・学習の方法論を分析し、近世思想家における「知の作り方」を分析した。また公益財団法人前川財団の子育てに関わる研究助成と公開シンポジウムの企画開催にあたってきた。後者の活動をふまえて、子育てに直面する若い世代に向け、既存の諸学を基盤とした「子育て実践学」の立ち上げのために、母性・父性を越えた「親性」育成をテーマとした研究会を組織し、関係研究者集団の共同研究を始めている。

(4) 山本 尚

従来の研究テーマであるルイス酸触媒を用いてペプチドの合理的且つ実用的合成法の開発を行っている。様々な新手法を用いて、これまでのカルボン酸活性化法をはるかに凌駕する合成法の開発とそれを用いるペプチド化学の一新を目指している。

(5) 安藤 隆穂

- ① 「公共圏の思想史」の研究を、ナポレオン帝政期の英仏独伊の比較思想史を中心にを行った。関連して、共編著『ナポレオン帝政と公共圏』の準備作業を、前年度よりの継続として、続けた。
- ② 「社会思想史の成立」を主題とする研究を行った。関連して、社会思想史学会編『社会思想史事典』の共同編集を担当した。
- ③ 「東アジア思想交流史」の研究を行った。国立台湾大学文徳書院との間で共同研究を進め、当地でシンポジウムも開催した。
- ④ 以上の研究の進展を、中部大学高等学術研究所でのプロジェクト「人文学の再構築」に反映させた。

(6) 福井 弘道

地域から地球の多様な空間スケールで持続可能性を追求するには、複数の学術領域をまたがる学際研究や社会の多様なステークホルダーとの連携・協働による超学際的なアプローチが不可欠である。デジタルアースは、サイバースペース上に構築される俯瞰型情報基盤、多次元・多解像度で表現された地球であり、持続可能な地球の将来を考えるために、環境・災害等の「問題複合体」を解題する共同実験室、コミュニケーションのプラットフォームとして利用が期待される。引き続きデジタルアースの構築とその活用について研究を行うとともに、創発学術の創成基盤を模索した。今年度は特に戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の2期の国家レジリエンス（防災・減災）の強化に参画し、デジタルアースを活用した被災状況の解析・予測技術の開発について取り組み、早期に被災状況を把握するための研究枠組みを検討した。また、eAsia 研究助成による、災害時の UAV の活用方法の研究や、人間安全保障学会などと連携したSDGsの指標の可視化にも引き続き取り組んだ。さらに気候変動の緩和と適応策について、ナッジ理論を活用した行動支援の在り方や不確実性を考慮したリスクガバナンスの手法に関する研究を、中部地域を対象として行った。

(7) 齋藤 洋典

人の意味処理に関する自身の基礎研究を総括するために「意味を索（もと）めて」の執筆に着手し、10章のうちの5章の草稿を作成した。2019年度に「ちとせプレス」より出版予定。

また実践的研究として、愛知県立芸術大学のデザイナー水津功氏と「(デザイナーとユーザーの) 共進化のデザイン」の研究を開始した。具体的には、1)ユーザーの要求が確定困難な状況として、高齢者ユーザー（入居予定者）の意思決定が利用できない高齢者施設のデザインを取り上げ、2)介護福祉士が高齢者ユーザーの意思決定の支援者（第二ユーザー）と見なし得るかを検討するために、介護福祉士に対するインタビュー調査を実施した。

これとは別に、国立台湾大学から招聘を受け、招待講演“Various Aspects of Meaning beyond Language”を行い、また、同大学で開催された第17回東アジアの言語処理に関する国際学会から約40年に亘る同国際学会への貢献を顕彰された。

(8) 平田 豊

科研費基盤B課題「予測性適応制御を実現する小脳神経回路網の機能理解と実機制御への応用」（代表. H28～31）、科研費国際共同研究強化B課題「実機制御への応用を目指した予測性運動制御を実現する脳幹・小脳ループの神経機構理解」（代表. H30～32）、愛知県知の拠点あいち重点研究プロジェクト「眼球運動を指標としたドライバ状態検知技術の実用化」（代表. H28～30）、その他、企業共同研究5件を実施した。8月から1ヶ月間、オハイオ大学にRobert Glidden 客員教授として滞在し、共同研究を実施した。3月に、「眼球運動の神経機構と社会実装：目とところ」シンポジウムを本学で開催した。JST 名古屋大学 COI プロジェクト「人がつながる“移動”イノベーション拠点」に未来社会創造機構客員教授として参加した。

(9) 川上 文人

チンパンジーとヒトの比較発達研究をおこなっている。主たる目的は、チンパンジーとヒトにおける笑顔の使い方の違いを探ることで、対他者関係の構築の進化にせまることである。チンパンジーにかんしては名古屋市東山動植物園にて、1歳(2019年3月時点)の乳児を含むグループの観察を乳児の出産前から継続している。ヒトについては、出生直後の新生児期から生後24週にかけて、笑顔の縦断的観察をおこなっている。睡眠中にみられる自発的微笑と、覚醒中にみられる社会的微笑を各乳児で観察している。それにより、機能が明らかになっていない自発的微笑が、社会的微笑の発達にかかわっているのかを明らかにす

ることができる」と期待される。

(10) 松林 公蔵

約15年にわたって長期縦断研究をおこなっている高知県土佐町在住高齢者に関する健康長寿計画を継続した。内容としては、地域在住高齢者の生活習慣病の管理、Activities of Daily Living (ADL)、Quality of Life (QOL)の評価とともに、最近注目されている高齢者の Frailty 調査・解析を実施した。国外研究としては、ブータンの複数地域に若手研究者を派遣して、地域に即した高齢者ヘルスケア・デザインの構築を展開した。約19年間継続しているニューギニア(インドネシア・西パプア)に多発する神経難病に関する実態調査を継続して、時代とともに変化する病型の変遷を検討した。

(11) 山口 佳三

今年は、韓国 KIAS の研究集会に参加する機会があり、前年度の計算結果をさらに改良することができた。すなわち、すべての例外単純リー環に対して、それを自己接触同型として持つ二階過剰決定系の具体的な方程式の積分過程を統一的に記述することができた。

(12) 矢野 誠

本年度も、本研究者が提唱する「市場の質」の経済学の構築に向けて、引き続き研究を進めてきた。その中で、特に、市場の質という概念の根幹をなす「公正性」と「効率性」の関係について研究を進めた。効率性というのは、規範的側面から市場の機能を示すために、20世紀の経済学を通じて精緻化された代表的概念である。市場の質理論では、第二の規範的尺度として、市場競争に関する競争上公正性が提唱されている。一般に、公正性というのは広く確立され、受け入れられたルールへの順守の程度と定義できる。市場の質理論では、競争上公正性の基準として、どの市場参加者も自分と取引する可能性のある潜在的な取引相手を、経済的条件以外では、差別しないという無差別性原則が提唱されている。本年度の研究では、いかにして欧米の市場において無差別性原則が形成され、さらに、この原則の下で行われる公正な市場取引がどのようなものかについての解明に成功した。

(13) 細田 衛士

拡大生産者責任によって使用済み製品の処理・リサイクル費用が生産者に課されると、それによって廃棄物処理・リサイクルの効率化が進むとともに DfE も進展するというのが一般的な理解であるが、しかしこの主張は経済理論的には

解明されていない。そこで、廃棄物処理・リサイクル単価という「価格シグナル」によって DfE が促され、市場均衡が長期定常均衡（一人当たりの消費が最大になる点）に導かれるという命題を解析的に捉えなおし、どのような条件の下で DfE の長期均衡が成立するのか示すのが研究課題である。Sraffa-von Neumann-Leontief の線形長期一般均衡モデルを用いて EPR を組み込んだ動静脈経済活動を組み込んだモデルを作り、均衡の安定性の条件を求めた。

(14) 土井 隆雄

人類が宇宙に持続的に展開していくための学問「有人宇宙学」の創出をめざし、教育・研究活動を展開した。教育活動において、文部科学省委託事業「有人宇宙活動のための総合科学教育プログラムの開発と実践」を遂行し、有人宇宙活動のために基礎教育プログラム及び専門教育プログラムの構築を完了した。また、アリゾナ大学と共同で準閉鎖人工生態系 Biosphere2 を使った教育活動：スペースキャンプ（Space Camp at Biosphere 2: SCB2）を開始した。研究活動において、京都大学花山天文台にて系外惑星の探査・観測を実施し、宇宙における新しい資源としての木材利用の可能性を探るため真空下における木材の物理化学特性を調べる実験を継続して行った。さらに、京都大学霊長類研究所と高等教育研究開発推進センターと協力して、パラボリックフライトを利用した微小重力環境下での社会心理学的実験および時間認知実験を実施した。

(15) 幸島 司郎

アジアゾウ、ミナミハンドウイルカ、アマゾンマナティーなど、様々な野生動物を対象として、その行動と生態、保全に関する研究をおこなった。アジアゾウに関しては音声と行動との関係解析から、他個体に危険を知らせる機能を持つと思われる音声を明らかにした。韓国チェジュ島周辺に生息するミナミハンドウイルカの調査では、夜間に採食する日本近海の個体群とは異なり、日中に採食行動を行うことや、コミュニケーション音に違いが見られることが明らかになった。アマゾンマナティーの野生復帰事業では、新たに 10 頭を野生放流し、約半年間の追跡調査によって野生環境への適応を確認した。また、氷河に生息する昆虫の腸内細菌に関する研究も行った。

(16) 湯本 貴和

霊長類学では、アマゾン熱帯林の種子食の進化とアフリカ熱帯林での昆虫食の実態把握について、方法論も含めて検討をおこなった。生態学では、生態系サービスの持続的利用としてのユネスコ・エコパークの制度的役割や里山の位置付けについて検討をおこない、著作執筆や講演で成果発表をおこなった。また

日本学術会議「人口縮小社会における野生動物管理のあり方の検討に関する委員会」に委員として参画し、委員会で議論するとともに、公開シンポジウムのオーガナイザー、答申のまとめなどの役割を果たした。

(17) 川合 伸幸

ヒトおよび霊長類を対象として以下の研究をおこなった。ヒトでは、1) 風景のなかで動物の有無だけが異なる2枚の写真の違いを検出する課題においてヘビが早く認識されることを示す実験、2) ヘビの写真の対する脳波実験、3) VR空間内で身体の状態によって美術作品に対する印象が異なることを示した実験、4) 鏡の前でひとりで食事をするとおいしく感じることを示す行動・脳波実験らを実施した。サルの研究では、5) 自閉症モデル・マーモセットとその統制マーモセットの日内リズムを調べる実験、6) サルにとっては第三者であるヒト同士のやりとりが互恵的であるか非互恵的であるかを調べる実験をマーモセットとニホンザルで比較した。向社会的な種であるマーモセットはこれらの違いを区別したが、独裁的とされるニホンザルは違いを認識できなかった。「凶暴老人 認知科学が解き明かす「老い」の正体」(小学館新書)を出版した。

(18) 津田 一郎

クレスト課題「脳領域/個体/集団間のインタラクション創発原理の解明と適用」においては、拘束条件付き自己組織化理論を拘束条件付きハミルトン系とバコノミック力学の両面から理論的な検討を加え、具体的なニューラルネットに適用した。特筆すべき成果として、リザヴォアー・コンピューターに進化的拘束条件を付けたモデルニューラルネットに視覚情報、聴覚情報にそれぞれ対応する情報を混合して入力しネットワークを進化・発展させると、視覚情報のみを処理するニューロンと聴覚情報のみを処理するニューロンが分化してくることが分かった。また、両方の情報を処理できるある意味で未分化のニューロンも存在しうることが分かった。また、新学術領域「非線形発振現象を基盤としたヒューマンネイチャーの理解」の研究においても予想以上の成果が上がった。てんかん患者の脳波データの数理解析において前駆現象の一つ(低次元カオス力学系の存在)を昨年度確定したが、今年度はさらに脳波のパワースペクトルのべき乗則からの残差にも特徴的な前駆現象が現れることを確認した。これらをてんかん発作のバイオマーカーの候補として提案する予定である。

(19) 牛田 一成

野生動物と家畜の腸内細菌研究を行った。国内では、環境省環境研究総合推進費をうけて、ニホンライチョウの保護増殖事業に関わり、飼育ニホンライチョ

ウの健全な発育と将来の野生復帰に向けた方法論の開発を進めた。国外では、ウガンダ共和国において、野生動物や家畜の薬剤耐性菌汚染を調査した（科研費基盤 A 代表）。将来的に無薬・減投薬の家畜生産を実現するために、健康なアフリカ現地種の家畜や、野生動物から有用細菌の分離と同定を実施するとともに、家畜由来の薬剤耐性菌の分離、農場周辺の薬剤耐性菌汚染を把握するために、土壌の耐性遺伝子メタ解析、畜産物を汚染する薬剤耐性菌の解析を行った。また科研費(萌芽研究)を受け、ウガンダ共和国内で、スカベンジャー動物(アフリカハゲコウ)の生命力を探るため、糞便の網羅的菌叢検索や有用菌の単離を行った。ガーナ共和国においては、アフリカ原産の野生動物の家畜化を進めるために、野生種から有用な乳酸菌を分離し、飼育下の動物に給与する研究を進めた(科研費基盤 B 分担)。

また、応用生物学部環境生物学科の教育を担当し、講義前期 1 科目、後期 1 科目を実施した。

(20) 荒井 迅

昨年度に引き続き、高次元力学系の分岐理論について、位相力学系と複素力学系の双方の手法を絡めた研究を進めた。特に、複素力学系のモノドロミー表現を詳細に調べることで、高次元マンデルブロ集合のトポロジーにある種の代数的な制約があるという結果を得ることができた。また、九州大学の石井豊氏、慶應大学の高橋博樹氏との共同研究により、エノン写像で馬蹄形が壊れる瞬間のエルゴード理論的な記述に関する新しい成果も得た。応用方面では、北海道大学の武次研究室との共同研究において、量子化学計算の結果をグラフ理論を活用して可視化し、ポテンシャル曲面の構造を効果的に表現する手法を開発を進展させた。

(21) 松田 一希

2005 年より実施している、マレーシア・サバ州における霊長類の長期野外調査を今年度も実施した。特に、参画している CREST における研究テーマの一つである、霊長類社会の階層化の仕組みを明らかにするため、野外観察に加え、霊長類の群れの個体間の血縁度解析といった遺伝学的手法もあわせた研究を進めた。また本地では、ドローン技術などの最新技術を導入することで、調査地域に生息する霊長類を含む哺乳類相の効率的なセンサス手法の開発に向けての研究活動を開始した。野外研究に加えて、霊長類社会において階層化が生じる原理を解明するため、京都大学霊長類研究所で飼育されているニホンザルに、高精度の位置測位システムを導入した実験を実施した。また日本国内では、コロンビアから来日した日本学術振興会の特別研究員 PD と共同で、金華山島（宮城

県)と下北半島(青森県)に生息する野生ニホンザルの生態学的研究を行った。行動観察に加え、調査期間中にはニホンザルの糞も収集し、その糞分析をとおして彼らの野生での栄養状態を定量的に評価するための手法の開発をおこなった。

(22) 桑畑 裕子

創発学院にて、主に【1】管理運営業務、【2】アウトリーチ活動、【3】およびリサーチアドミニストレーション(RA)業務に従事した。

具体的には、【1】創発学院および各教員に措置された経費の管理・執行、運営委員会の運営・調整、ウェブサイトの管理・運営、そのほか事務的な業務全般を担当した。【2】創発学院が開催する学内セミナー(創発セミナー、学術レクチャー、学長コロキウム)、併設校の中高生を対象とした「特別講演会」・「特別講義」、高校生向けシンポジウム「第27回JST数学キャラバン：拡がりゆく数学 in 春日井」等のアウトリーチ活動の企画、運営をおこなった。【3】『「知の創発」研究拠点プロジェクト」創設、同プロジェクト研究会の実施、学内研究情報交換会の開催(世話人)への支援を通じて、中部大学全体の研究活動活性化に取り組んだ。

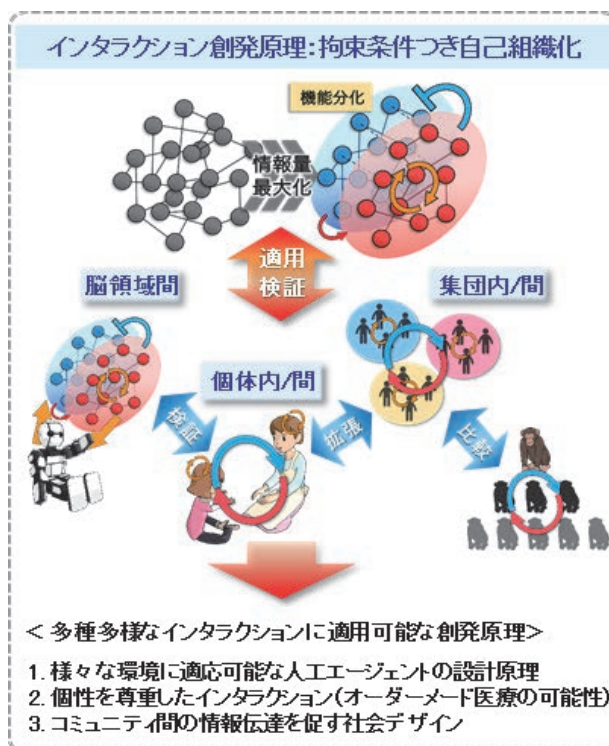
2. 大型プロジェクト

国立研究開発法人科学技術振興機構 CREST「脳領域／個体／集団間のインタラクション創発原理の解明と適用」

複雑にネットワーク化された環境とインタラクションすることで機能分化し、環境に即時適応する人工システムの基本原理、設計原理を次の研究によって解明していきます。脳領域内、個体内、個体間、集団内、集団間それぞれにおいて、集合知とともに新しい機能を発現するインタラクションのあり方を親子、ヒト集団、霊長類集団にかかる拘束条件を変化させることで明らかにし、インタラクションの新たな科学を創出することが目的です。特に、下記の2点に着目して研究を推進しています。

- i) システムに拘束条件がかかることで機能的なシステム部品（成分）が自己組織される原理は何か？
- ii) 人間社会において個より機能の優れた集合知が可能か？

これに対して、平成30年度、いくつかの成果があがりました。津田グループでは、インタラクション創発原理に関して、拘束条件付自己組織化理論を開拓し、リザバー計算と呼ばれるニューラルネットの計算手法に進化的要因を導入することで拡張し、エラー最小という拘束のもとでのネットワークの自己組織を調べました。具体的には、視覚情報と聴覚情報を同時にネットワークに入力した時にネットワーク内に視覚情報、聴覚情報に特異的に反応するユニットが分化することを発見しました。松田グループでは、集合知の進化基盤に関して、階層的な社会構造を解明する研究を行いました。野生テングザルの遺伝試料を採取し血縁度推定を実施するためのデータを遺伝子実験より得ました。また、階層・寛容型の社会を形成するテングザルとの比較として、単層・寛容型社会の野生ベニガオザルの遺伝、行動データの収集を開始しました。並行して、ケージ内での全飼育個体（オス2頭、メス3頭）同時追跡技術を利用して、10日間のデータ収集を行い、社会創発機構の解析を開始しました。（文責：津田一郎）



環境省環境研究総合推進費「ニホンライチョウ保護増殖に資する腸内細菌の研究」

特別天然記念物のニホンライチョウは、生息数が減少していることから絶滅が危惧されている。そのため、生息域内での保護と野外での採卵と動物園における人工孵化事業が進められている。しかし、採卵と人工孵化を除いて解決すべき課題が多く見つまっている。「人工飼育の成功」という喫緊の課題に加えて「飼育個体の野生復帰」という将来的な課題に対して、本研究では「ライチョウの生存を可能にする腸内細菌の解明」、「感染抵抗性と有毒物質の解毒作用を持つ有用菌の確保と野生型腸内菌叢の再構築」という考え方によって解決の道筋を明らかにしている。

30 年度は、引き続き野生ライチョウから有用細菌の分離を行い、分離細菌の抗菌性およびタンニンの分解能力を検定した。分離菌の中で、飼育ニホンライチョウの死亡個体由来の日和見感染菌に対する抗菌性や高いタンニン分解活性も示した *Lactobacillus apodemi*, *Streptococcus gallolyticus* および免疫刺激能とキシラン分解が期待される *Escherichia fergusonii* の凍結乾燥菌末をプレバイオティクス製剤化することに成功し、スバルバルライチョウ飼育実験の接種菌として提供し好成績を得た。28、29 年度までは、慣行法の飼料に添加していたが、30 年度は、選抜したプロバイオ菌の高いタンニン分解力を生かすために、飼料の 25%をタンニン源となる漢方薬で置き換えたいわゆるシンバイオティクスの処方を試みた。その結果、感染症による事故率を 0 にするとともに、これまでの飼育個体の問題であった過体重と過肥を防ぐことに成功した。

これらの成果から、30 年度には、国際誌に原著論文 3 報が掲載された。これに加えて現在投稿中の原著論文も 2 報あり、2 件の国際学会発表（ユタ州立大）、7 件の国内学会（日本生態学会他）発表と併せて活発に情報発信した。とくに、コクシジウム原虫の分類と病原性を引き続き検討し、新種アイメリアの記載を行い、新種として国際的に承認された。これらの成果によって、ライチョウの保護保全に関する新規課題として、31 年度以降も環境省環境研究総合推進費として採択された。

3. 研究業績

(1) 松沢 哲郎

書籍

松沢哲郎 (2018) 分かちあう心の進化 岩波科学ライブラリー.

松沢哲郎 (2018) 推定年齢 58 歳で亡くなった野生チンパンジー・ベルの生涯 (ちびっこチンパンジーと仲間たち 第 196 回). 科学 88: 372-373.

松沢哲郎 (2018) 温泉に入るサルやカモシカ (ちびっこチンパンジーと仲間たち 第 198 回). 科学 88: 570-571.

松沢哲郎 (2018) 探検大学の誕生 ヒマラヤ初登頂, アフリカ初探検, 南極初越冬の 60 周年 (ちびっこチンパンジーと仲間たち 第 199 回). 科学 88: 722-723.

松沢哲郎 (2019) ブータン：環境教育と国民総幸福量(GNH) (ちびっこチンパンジーから広がる世界 第 208 回). 科学 89:310-311.

学術論文

Fitzgerald M, Coulson R, Lawing A, Matsuzawa T, Koops K (2018) Modeling habitat suitability for chimpanzees (*Pan troglodytes verus*) in the Greater Nimba Landscape, Guinea, West Africa. *Primates* 59(4): 361-375.

Gao J, Su Y, Tomonaga M, Matsuzawa T (2018) Learning the rules of the rock-paper-scissors game: chimpanzees versus children, *Primates*, 59(1): 7-17 doi: 10.1007/s10329-017-0620-0.

Matsuzawa T (2018) Hot-spring bathing of wild monkeys in Shiga-Heights: origin and propagation of a cultural behavior. *Primates*, 59(3): 209-213.

Matsuzawa T (2018) World Chimpanzee Day and the Ai's Scarf Award. *Primates* 59(5): 409-412.

Matsuzawa T (2018) Gorongosa and Sasagamine: intra-species behavioral variation in baboons and Japanese monkeys. *Primates* 59(6): 495-497.

Matsuzawa T (2019) Iriomote island: ecology of a subtropical island in Japan. *Primates* 60(1): 1-3.

Matsuzawa T (2019) Bhutan: environmental education and Gross National Happiness (GNH) *Primates* 60(2): 103-108.

Matsuzawa T, Yamagiwa J (2018) Primatology: the beginning. *Primates* 59(4): 313-326

Mendonça RS, Dahl CD. , Carvalho S, Matsuzawa T, Adachi I (2018)

Touch-screen-guided task reveals a prosocial choice tendency by chimpanzees (*Pan troglodytes*) *PeerJ*, 6:e5315.

Watson CFI, Matsuzawa T (2018) Behaviour of nonhuman primate mothers toward

their dead infants: uncovering mechanisms. Philosophical Transactions of the Royal Society B 373: DOI: 10.1098/rstb.2017.0261.

松沢哲郎, 坂本龍太, 西谷祐子, 加藤恵美子, 竜野真維, 松井一純, 松永倫紀, 山極壽一 (2019) ブータンの国民総幸福量(GNH)をめぐる旅：京都大学ブータン友好プログラム 2018 (第 17 次隊) の報告 ヒマラヤ学誌, 20:2-23.

学会発表・招待講演

Matsuzawa T (2018) The study of chimpanzee mind in relation to public communication, 2018 PCST Conference, Dunedin, New Zealand.

松沢哲郎 (2018) 想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心. 愛知県立明和高等学校 探求ガイダンス, 犬山市民文化会館, 愛知県犬山市.

Matsuzawa T (2018) 想像的力量. Yunnan Normal University, Kunming, China.

Matsuzawa T (2018) Special lecture at New Oriental Training School “Imagination: Human mind viewed from the study of chimpanzees” Kunming, China.

Matsuzawa T (2018) "想像的力量" Lijiang Forum on Nature and Culture, The Nature Conservancy (TNC). Lijiang Old Town Historical and Cultural Exhibition Hall, Lijiang, China.

松沢哲郎 (2018) 天野エンザイム見学会. 霊長類研究所と日本モンキーセンター "分かちあう心の進化", 愛知県犬山市.

松沢哲郎 (2018) 公開講演法然院 夜の森の教室 法然院 “心の進化をさぐる：希望を生みだす知性”，法然院，京都府京都市.

Matsuzawa T (2018) Nicolaus Copernicus University in Toruń. Collegium Humanisticum, Toruń, Poland.

松沢哲郎 (2018) 野性動物研究センター創立 10 周年記念式典 基調講演, "知遇を得て 50 年, 知己を待つ 100 年", 芝蘭会館稲盛ホール, 京都府京都市.

松沢哲郎 (2018) 甲南大学講演会 分かちあう心の進化, 兵庫県神戸市.

松沢哲郎 (2018) 淡交会総会 心の進化を探るーはじめての霊長類学ー, 東京都江東区.

松沢哲郎 (2018) 分かちあう心の進化. 中部学院大学公開講座, 岐阜県関市.

松沢哲郎 (2018) 新幼児教育研究会 40 周年記念大会 チンパンジーの親子と教育. 大阪府大阪市.

松沢哲郎 (2018) 夏季国語教育研究講座 分かちあう心の進化, 大阪府大阪市.

松沢哲郎 (2018) 京都サマープログラム 2018. 教育推進・学生支援部棟 KUINEP 講義室 分かちあう心の進化：チンパンジーが教えてくれた人間の本性
Mutual support: Evolution of human mind viewed from the study of chimpanzees, 京都府京都市.

- 松沢哲郎 (2018) 名古屋東南ロータリークラブ 心の進化をさぐる はじめての霊長類学, 愛知県名古屋市.
- 松沢哲郎 (2018) 日本宗教学会第77回学術大会 大谷大学公開シンポジウム「ヒトと宗教」, 京都府京都市.
- 松沢哲郎 (2018) 赤ちゃん学会若手部会研究合宿.
- 松沢哲郎 (2018) 全国保育者養成協議会 特別講演 長良川国際会議場 想像するちからーチンパンジーが教えてくれた人間の心, 岐阜都ホテル, 岐阜県岐阜市.
- 松沢哲郎 (2018) 高等研究院シンポジウム「KYOTO Science Session 2018」, 京都大学百周年時計台記念館, 京都府京都市.
- 松沢哲郎 (2018) 一般社団法人桜蔭会（お茶の水女子大学同窓会）分かち合う心の進化, 京都平安ホテル, 京都府京都市.
- 松沢哲郎 (2018) 日本乳幼児教育学会第28回大会, 分かちあう心の進化, 岡山コンベンションセンター, 岡山県岡山市.
- Matsuzawa T (2018) First international scientific Horse meeting. Mairie de Chantilly "Comparative language and cognition primates-equid", Chantilly, France.
- 松沢哲郎 (2019) 想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心, 2018年度ニューパラダイム研究会, 帝国ホテル東京, 東京都千代田区.
- Matsuzawa T (2019) Evolution of human mind viewed from the study of chimpanzees, European Workshop on Cognitive Neuropsychology, Bressanone/ Brixen, Italy.
- 松沢哲郎 (2019) 中部学院大学公開講座, 分かちあう心の進化, 中部学院大学, 岐阜県各務原市.
- Matsuzawa T (2019) Comparative Cognition in Primates, CARTA 10th Anniversary Symposium: "Revisiting the Agenda", La Jolla, CA, USA.

(2) 森 重文

学術論文

- Mori S, Prokhorov Y (2018) Threefold extremal curve germs with one non-Gorenstein point, Submitted for Iskovskikh Volume from Izvestija, accepted.

学会発表・招待講演

- Mori S, "On the birational classification of algebraic varieties"
Ball 70 Symposium & Colloquium,
オックスフォード大学, オックスフォード, イギリス
Leonardo da Vinci Lecture.
- Mori S, "Birational Equivalence of Algebraic Varieties"

ミラノ大学, ミラノ, イタリア

ICTP Colloquium.

Mori S, Birational Equivalence of Algebraic Varieties

国際理論物理学センター(ICTP), トリエステ, イタリア.

Mori S, Around extremal rays and classification of Fano 3-folds:

personal recollections

Conference "Algebraic Geometry and Moduli Theory", 数理解析研究所.

(3) 辻本 雅史

書籍

辻本雅史 (2018) 親と子のコミュニケーションー前川財団未来教育シンポジウム講演集 3ー, 公益財団法人編集, 41-46,47-72,119-129,130-153.

学会発表・招待講演

辻本雅史 (2018) 江戸時代日本の儒学と教育ー知の伝達メディアの構想ー, 上海大学歴史系, 中国上海市.

辻本雅史 (2018) 私立大学の現状と管理問題, 首都師範大学教育学院, 中国北京市.

辻本雅史・楊奕 (2018) 日本の幼児教育の歴史と現状, 首都師範大学学前教育学院, 中国北京市.

辻本雅史 (2018) アジア共同体と素読ー江戸の知の作られ方ー, 中国文化大学外国語学院, 台湾台北市.

辻本雅史 (2018) 日本研究の「うち」と「そと」ー台湾からの視点ー, 南山大学アジア太平洋センター.

辻本雅史 (2019) 思想を語るメディアー江戸思想史再構成のころみー, 中部大学国際人間学研究科.

(4) 山本 尚

学術論文

Tsuji H, Yamamoto H (2018) Synthesis of Dipeptides by Boronic Acid Catalysis, Synlett,29(03), 318-321, DOI: 10.1055/s-0036-1589130.

Muramatsu W, Yamamoto H (2018) Catalytic Peptide Synthesis: Amidation of N-Hydroxyimino Esters, ACS Catalysis, 8(3), 2181-2187, DOI: 10.1021/acscatal.7b04244.

Sukalyan B, Yamamoto H (2018) Substrate Directed Asymmetric Reactions, Chem. Rev., 118(7), 3391-3446, DOI: 10.1021/acs.chemrev.7b00514.

Amit B, Yamamoto H (2019) Direct N–O bond formation via oxidation of amines with benzoyl peroxide, Chemical Science, 10, 2124-2129,
DOI: 10.1039/c8sc04996c.

学会発表・招待講演

山本尚 (2018) ルイス酸触媒からペプチド合成へ 立命館大学総合科学技術研究機構 創薬科学研究センターシンポジウム 2018 独創的な基礎研究から革新テクな医薬開発へ. 立命館大学びわこくさつキャンパス ローム記念館大ホール, 滋賀.

山本尚 (2018) 民族性と科学技術のジレンマ 公益社団法人日本化学会 九州支部訪問. ホルトホール大分, 大分.

山本尚 (2018) 民族性と科学技術のジレンマ 2018 年度土気地区研究発表会. 昭和電工株式会社 事業開発センター, 千葉.

山本尚 (2018) 民族性と科学技術のジレンマ 住友化学株式会社 新合成研究棟 開所式 記念講演. 住友化学株式会社 健康・農業関連事業研究所, 兵庫.

山本尚 (2018) 民族性と科学技術のジレンマ 第7回 JACI/GCS シンポジウム. ANA クラウンプラザホテル神戸, 兵庫.

山本尚 (2018) ルイス酸触媒からペプチド合成まで 北海道大学大学院総合化学院 公益財団法人 杉野目記念会 特別講演会. 北海道大学フロンティア応用科学研究棟 2F 鈴木章ホール, 北海道.

山本尚 (2018) ルイス酸触媒からペプチド合成まで 千葉ヨウ素資源イノベーションセンター開所記念式典 基調講演. 千葉大学西千葉キャンパス 千葉ヨウ素資源イノベーションセンター, 千葉.

山本尚 (2018) ルイス酸触媒からペプチド合成まで, アドバンスマテリアル研究所講演会. 東ソー株式会社 アドバンスマテリアル研究所, 神奈川.

山本尚 (2018) ルイス酸からペプチド合成に 平成 30 年度 有機合成化学協会東海支部 若手研究者のためのセミナー. 中部大学 名古屋キャンパス 6 階大ホール, 愛知.

山本尚 (2018) ルイス酸触媒からペプチド合成へ 日本プロセス化学会 2018 サマースシンポジウム, タワーホール船堀, 東京.

山本尚 (2018) 民族性と科学技術のジレンマ 株式会社ブリヂストン役員研修講演会. 株式会社ブリヂストン グローバル研修センター, 東京.

山本尚 (2018) From Lewis acid catalyst to catalytic peptide synthesis 北京化工大学 講演会. 北京化工大学, 北京.

山本尚 (2018) Designer Lewis Acid Catalysts for Nitroso Diels-Alder Reaction, Nitroso Aldol Reaction, and Peptide Synthesis ORGANIC CHEMISTRY DAY @

PAVI. PALAZZO CENTRALE DELL'UNIVERSITÀ, イタリア.

山本尚 (2018) 新規ペプチド合成方法論開発 小野薬品 創薬化学シンポジウム
～分子技術による次世代創薬への挑戦～. 小野薬品工業株式会社 水無瀬研
究所, 大阪.

山本尚 (2018) From Lewis Acid Catalysis to Peptide Synthesis 2018 Barluenga
Lectureship Oveido, November 8-9. Oviedo University, スペイン.

山本尚 (2018) ルイス酸触媒からペプチド合成まで 第103回ファインケミカル
ズ研究会例会. KKR ホテル大阪 オリオンの間, 大阪.

山本尚 (2019) ルイス酸触媒からペプチド合成へ 平成30年度 NEDO 『TSC
Foresight』 セミナー (第3回). イイノホール&カンファレンスセンター
RoomA, 東京.

山本尚 (2019) 民族性と科学技術のジレンマ 一般社団法人日本エネルギー学会
第94回定時総会 特別講演会. 学士会館 202号室, 東京.

山本尚 (2019) From Lewis Acid Catalysis to Peptide Synthesis 第1回 ICRéDD 国際
シンポジウム. 北海道大学 FMI 国際拠点, 北海道.

山本尚 (2019) 大学革命のすすめ! 日本化学会第99春季年会 2019. 甲南大学
岡本キャンパス, 兵庫.

山本尚 (2019) Lewis Acid Catalyst to Peptide Synthesis 上木佑介博士を偲ぶ国際シ
ンポジウム. 名古屋大学大学院工学研究科 ES ホール, 愛知.

(5) 安藤 隆穂

書籍

安藤隆穂 共編著 社会思想史学会編 社会思想史事典 丸善出版.

学術論文

安藤隆穂 社会思想史の成立 4-13.

安藤隆穂 概説：近代の形成——ルネサンスから17世紀へ (共著) 42-43.

安藤隆穂 フランス啓蒙思想 144-147.

学会発表・招待講演

安藤隆穂 公教育と道徳：フランス革命と自由のモラル

民主主義科学者協会法律部会 2018年度学術総会, 南山大学.

安藤隆穂 東アジア思想交流史の西欧文脈

国際研究集会「東亜思想交流史」国立台湾大学.

新聞記事・報道など

安藤隆穂 中部高等学術研究所共同研究会 人文学の再構築 第2回 Chubu
Institute for Advanced Studies 106.

安藤隆穂 中部高等学術研究所共同研究会 人文学の再構築 第3回 Chubu
Institute for Advanced Studies 107.

安藤隆穂 中部高等学術研究所共同研究会 人文学の再構築 第4回 Chubu
Institute for Advanced Studies 108.

(6) 福井 弘道

学術論文

原理史, 福井弘道, 清本三郎 (2019) 省エネ行動試行による省エネ型家電購入意
向への動機づけ効果—長久手市における事例研究, 環境共生 Vol.34, 31 - 36.

学会発表・招待講演

福井弘道 (2018) 多様な問題複合体に GIS プラットフォームで挑む, 第14回 GIS
コミュニティフォーラム, ESRI ジャパンユーザ会, 東京ミッドタウン.

Fukui H (2018) “Earth Observation in Japan For Disaster-related SDGs from Digital
Earth Perspective”, GEO Week 2018 Side Event: Earth Observations for Disaster
Risk Reduction at Kyoto.

Fukui H (2018) Invited panelist of "Digital Silk Road and International Partnerships" on
the session of " Digital Belt and Road, United Nations World Geospatial
Information Congress, Deqing, Zhejiang Province, China.

福井弘道 (2019) 俯瞰的視点からみたエアロゾル研究 —社会と科学, バイオエ
アロゾル研究会, 茨木大学.

Fukui H (2018) “Activities in Digital Earth Japan Chapter”, The 7th Digital Earth
Summit 2018, International Society for Digital Earth Council Meeting. El Jadida,
Morocco.

Fukui H (2018) “Integration of multi-scale imagery of satellite, aircraft, drone, and
ground camera to GIS for Disaster Management” The 3rd Annual Meeting and
Workshop of the e-ASIA Program, Development of Information Gathering and
Utilization System Using Small UAVs for Disaster Risk Assessment, Monitoring
and Response, Bandung, Indonesia.

Fukui H (2018) “Statistical Geospatial Indicators on Human Security-related
SDGs---Implementation from Digital Earth Perspective”, World Social Science
Forum 2018 at Fukuoka.

Fukui H (2018) “Digital Earth Research as a Complexity Science, the science of

emergent systems and networks”, Seeking for a New Conception of Science: The Future of Scientific Culture in East Asia.

Fukui H (2018) “Research on flood disaster assessment by fusion of satellite observation and real-time simulation” SIP 国家レジリエンス 被災状況解析・共有システム開発に関する国際シンポジウム.

Fukui H (2018) “Group4 Digital Earth Presentation”, SATREPS THAILAND 4.0 を実現するスマート交通戦略 JCC at Bangkok.

Fukui H (2019) Integrated usage of UAV, aircraft, and satellite images for disaster management system”, 5th Annual Meeting and Workshop of the e-ASIA Program, Chennai.

福井弘道 (2019) 中部大学の最近のデジタルアース/Future Earth の取り組み, Future Earth 日本委員会, 日本学会会議.

福井弘道 (2018) フロン問題の成功体験に学ぶ, 全国リレーセミナー 改めて「空気の大切さ」を考える, 山形県朝日町.

福井弘道 (2018) 地理情報システム (GIS) を用いた防災の取り組み, 中部大学・高山市連携協定事業 ESD シンポジウム, 高山市.

福井弘道 (2018) システムの有機的連携・統融合プラットフォームの開発, SIP キックオフミーティング.

福井弘道 (2018) 浸水状況把握および洪水氾濫シミュレーション広域被災予測技術開発, SIP 第1回グループ会議.

福井弘道 (2018) これからの街づくりを考えるーSDGs, 気候変動への適応, 災害に強い街, GIS を切り口にして, 春日井ダボス会議.

福井弘道 (2018) 国際 GIS センター・デジタルアース拠点の 2018 年度の取り組み, デジタルアース共同利用・共同研究拠点 報告会.

福井弘道 (2018) 浸水状況把握および洪水氾濫シミュレーション広域被災予測技術開発, SIP 第2回グループ会議.

福井弘道 (2018) UAV・ドローン ー空の産業革命の到来ー, シンポジウム 先進ドローン都市を目指して, 岐阜県可児市.

福井弘道 (2018) フロン問題の成功体験に学ぶ, 全国リレーセミナー 改めて空気の大切さ を考える, 山形県朝日町.

福井弘道 (2018) 災害時の GIS を活用した屋根外装の点検システムの構築, 日本屋根外装工事協会 サマースクール講演, 名古屋クレストンホテル.

福井弘道 (2018) 最先端, 最強の災害対応を目指した名古屋市危機管理センターにおける防災情報共有・対応支援システムの構築, 名古屋市防災図上訓練, 名古屋市役所.

福井弘道 (2018) フロン問題の成功体験に学ぶ, 全国リレーセミナー 改めて

空気の大切さ を考える, 富士吉田市.

福井弘道 (2018) 災害に強い街づくりを考える –SDGs, 気候変動への適応, 安全な土地, GIS を切り口にして, 岐阜県建設研究センター ITC 講習会 まちづくりセミナー, みんなの森 岐阜メディアコスモス.

福井弘道 (2018) 空の産業革命の到来 ドローンが拓く未来社会をイメージする –衛星通信を活用した長距離無人航空機による広域三次元モデル生成の研究開発・社会実装に向けて, シンポジウム 先進ドローン都市を目指して, 勝川プラザホテル.

(7) 齋藤 洋典

学会発表・招待講演

Saito H (2018). Various Aspects of Meaning beyond Language. National Taiwan University.

(8) 平田 豊

学術論文

Miki S, Baker R, Hirata Y (2018) Cerebellar role in predictive eye velocity initiation and termination Journal of Neuroscience, Vol.38, No.48, 10371-10383.

学会発表・招待講演

Hirata Y (2018) Cerebellar role in predictive control of eye movement in fish and humans. The 75th Fujihara seminar: “The Cerebellum as a CNS Hub – from its evolution to therapeutic strategies”
Tokyo Medical and Dental University.

平田豊 (2018) 目から知り, 操作する脳, 第 10 回創発セミナー, 中部大学創発学術院.

Hirata Y (2018) Adaptive oculomotor control in fish and humans – from neural mechanism to mathematical modeling, cerebellum-machine interface, artificial cerebellum, robot control, sleepiness prediction, and motor learning facilitation. NeuroLunch Seminar.

Dept. Biological Science, Ohio University School of Art and Sciences.

Takatori S, Inagaki K, Hirata Y (2018) Realization of Direction Selective Motor Learning in the Artificial Cerebellum: Simulation on the Vestibuloocular Reflex. Proc. 40th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society. 5077-5080. (Honolulu).

Hirata Y, Miura S, Takagi Y, Kashima T, Urase K, Miki S (2019) Hyper-gravity

- promotes motor learning in goldfish and humans
Frontiers in Physiology, Conference Abstract: 39th ISGP Meeting & ESA Life Sciences Meeting. 79-82.
- Emoto J, Hirata Y (2018) Microsaccades predict spatial attention: Feature learning of microsaccade properties for oculo-feedback
Society for Neuroscience, San Diego.
- Miki S, Baker R, Hirata Y (2018) Relationship between predictive optokinetic behavior and velocity storage following vestibular neurectomy
Society for Neuroscience, San Diego.
- Miki S, Baker R, Hirata Y (2018) Decomposing adaptable elements of optokinetic response into cerebellar and non-cerebellar contributions by modeling and cerebellectomy approach.
24th Annual Computational Neuroscience Meeting CNS*2018, Seattle.
- Hirata Y, Miura S, Takagi Y, Kashima T, Urase K, Miki S (2018) Hyper-gravity promotes motor learning in goldfish and humans
ISGP & ESA Life Sciences Meeting, ESA ESTEC Noordwijk, Netherlands.
- 中野仁賀, 平田豊 (2019) 小脳除去手術が並進・傾き複合運動中の金魚の前庭動眼反射に与える影響の評価
電子情報通信学会技術研究報告, NC2018-81, 207, 電気通信大学.
- 松澤裕太, 平田豊 (2019) ヒトの予測的視運動性眼球運動の特性評価
電子情報通信学会技術研究報告, NC2018-81, 205, 電気通信大学.
- 平田豊, 加島崇史, 高木悠喜, 三浦祥平, 浦瀬康平, 三木俊太郎 (2018) 過重力環境下と明るい視環境下における運動学習の促進：金魚眼球運動神経積分器適応と人リーチング運動プリズム適応の例
第 64 回宇宙航空環境医学会大会シンポジウム：過重力・低重力に対するヒトの反応 アブストラクト集, 25, 順天堂大学さくらキャンパス.
- 山中都史美, 進士裕介, 池田拓未, 松山将之, 平田豊 (2018) 前庭動眼反射と視運動性眼球運動ゲイン適応の非対称関係.
電子情報通信学会技術研究報告, NC2018-23, 3, 京都大学桂キャンパス.
- 中野仁賀, 平田豊 (2018) 眼球運動を指標とした Tilt-Translation 識別曖昧性評価
電子情報通信学会技術研究報告, NC2018-20, 39, 東北大学.
- 松澤裕太, 平田豊 (2018) ヒトの予測的視運動性眼球運動. -眼球速度蓄積機構との関係, 第 41 回日本神経科学大会, 神戸国際展示場.
- 三木俊太郎, Baker R, 平田豊 (2018) 古典的伝達関数モデルによる予測性眼球運動獲得過程における小脳の役割評価, 電子情報通信学会技術研究報告, NC2018-12, 29, 沖縄科学技術大学院大学.

恵本序珠亜, 平田豊 (2018) Oculo-feedback のためのマイクロサッカードと空間的注意の関係解析, 電子情報通信学会技術研究報告, NC2018-2, 7, 富山大学.

佐藤建治, 吉田傑, 石田肇, 平田豊, 恵本序珠亜, 大前学, 安倍原也, 内田信行 (2018) 無操作(自動)運転時におけるドライバ状態(覚醒度)の変化に関する研究, 自動車技術会 2018 年春季大会前刷集, パシフィコ横浜.

進士裕介, 平田豊 (2018) 人工小脳の FPGA 実装, 第 14 回空間認知と運動制御研究会学術集会(旧 JAXA WG), 京都大学吉田南キャンパス.

松澤裕太, 平田豊 (2018) ヒトの視運動性眼球運動におけるタイミング予測学習, 第 14 回空間認知と運動制御研究会学術集会(旧 JAXA WG), 京都大学吉田南キャンパス.

池田拓未, 平田豊 (2019) 金魚における前庭動眼反射の文脈依存性ゲイン適応, 第 14 回空間認知と運動制御研究会学術集会(旧 JAXA WG), 京都大学吉田南キャンパス.

山中都史美, 平田豊 (2019) 金魚における前庭動眼反射の文脈依存性ゲイン適応, 第 14 回空間認知と運動制御研究会学術集会(旧 JAXA WG), 京都大学吉田南キャンパス.

山本雅也, 平田豊 (2019) 移動中のスマートフォン操作が及ぼす VOR パフォーマンスへの影響, 第 14 回空間認知と運動制御研究会学術集会(旧 JAXA WG), 京都大学吉田南キャンパス.

平田豊 (2019) 予測して目を動かす人と魚 -神経積分器と乗り物酔いとの関係 - 愛知県知の拠点あいち重点プロジェクト公開シンポジウム 目とこころ: 眼球運動の神経基盤と社会実装 中部大学リサーチセンター.

平田豊 (2018) JICA 課題別研修 産業技術教育 講義.

平田研究室 (2019) オートモーティブワールド出展.

平田研究室 (2018) フロンティア 21 エレクトロニクスショー出展.

平田豊 (2018) 脳の体操! 錯覚遊びと不思議な世界でボール投げ実験, 中部大学 エクステンション・公開講座, 春日井ジュニアセミナー.

平田豊 (2018) 科学技術の進歩と人間の生活-脳科学の進歩と実験実習-, 教員免許更新講習, 中部大学 SCOPE.

平田豊 (2018) だまされる脳・変わり続ける脳: 脳の活性化を図るために かすがい熟年大学.

新聞記事・報道など

平田豊 (2019) 日刊工業新聞, 交通事故防止に強い味方, ドライバー眠気予兆検知システム実用化へ 中部大学と東海理化, 東海光学などが開発.

平田豊 (2018) 日刊工業新聞, 金魚の未来予測行動に小脳必要 中部大が解明.

平田豊 (2018) 日本研究.com, 高い重力下で運動能力が向上する現象を実験で確認 —人気アニメドラゴンボール重力室の効果を再現—

<https://research-er.jp/articles/view/72673>.

平田豊 (2018) 大学ジャーナル ONLINE, ドラゴンボール重力室の効果を再現, 高い重力下で運動能力が向上 中部大学

<https://univ-journal.jp/22034/>.

平田豊 (2018) 財経新聞, まるでドラゴンボール? 中部大, 高重力下で運動能力が向上すると実証

https://www.zaikai.co.jp/article/20180724/455739.html#R07qnDH.twitter_tweet_count_m.

平田豊 (2018) fabcross for エンジニア, ドラゴンボールの”精神と時の部屋”の効果を再現—過重力下における運動学習能力向上を実証 中部大学

https://engineer.fabcross.jp/archieve/180724_chubu-university.html.

平田豊 (2018) EMIRA, 人気漫画にも登場する“重力部屋”! その効果を中部大学が実験・検証した.

(9) 川上 文人

書籍

友永雅己, 川上文人 (2018) 最初の笑顔をさかのぼる, Nextcom, 36: 50-51.

学術論文

川上清文, 高井清子, 川上文人 (2018) 幼児の目に見えない物を使う能力を調べる新しく, 簡便な方法 人間環境学研究, 16: 89-92.

学会発表・招待講演

川上文人 (2018) 人間とチンパンジーの笑顔は何がちがう?. 第 53 回京大モンキー日曜サロン, 日本モンキーセンター, 犬山市, 愛知県.

川上文人 (2019) 自発的微笑の縦断的観察 IV, 日本発達心理学会第 30 回大会発表論文集, 343, 早稲田大学戸山キャンパス, 新宿区, 東京都.

伊藤理絵, 藤野正和, 村上太郎, 白井真理子, 川上文人, 近藤龍彰 (2019) 笑う・笑わせる・笑われる—発達の視点からの捉え直し—, 日本発達心理学会第 30 回大会発表論文集, 102, 早稲田大学戸山キャンパス, 新宿区, 東京都.

(10) 松林 公蔵

学術論文

- Iwasaki M, Kimura Y, Sasiwongsaroj K, Kettratad-Pruksapong M, Suksudaj S, Ishimoto Y, Chang NY, Sakamoto R, Matsubayashi K, Songpaisan Y, Miyazaki H (2018) Association between objectively measured chewing ability and frailty: A cross-sectional study in central Thailand. Geriatr Gerontol Int. doi: 10.1111/ggi.13264. [Epub ahead of print] .
- Iwasaki M, Kimura Y, Ogawa H, Yamaga T, Ansai T, Wada T, Sakamoto R, Ishimoto Y, Fujisawa M, Okumiya K, Miyazaki H, Matsubayashi K (2018) Periodontal Inflammation, and mild cognitive impairment: 5-year cohort study. J Periodontal Res. Doi:10.1111/jre. 12623.
- Okumiya K, Sakamoto R, Kimura Y, Ishikawa M, Fujisawa M, Wada T, Ge Ri-Li, Norboo T, Otsuka K, Matsubayashi K (2018) Glucose Intolerance by Interaction between Hypoxia Adaptation and Lifestyle Change in Highlanders in Tibetan Plateau. Himalayan Study Monographs No19. 37-48.
- Ishida A, Fujisawa M, Del Saz EG, Okumiya K, Kimura Y, Manuaba IIB, Kareth MF, Rantetampang AL, Ohya Y, Matsubayashi K (2018) Arterial stiffness, not systolic blood pressure, increases with age in native Papuan populations. Hypertens Res. doi: 10.1038/s41440-018-0047-z. [Epub ahead of print] .
- Mizuno K, Ekawati Sri Wahyumi, Wada T, Matsubayashi K (2018) The welfare of elderly people in rural West Java: Economy and Vernacular care. JESSD 2018, Volume1, Issue 1, doi.org/10.7454/jessd.vlil 9.
- Imai H, Ogawa Y, Okumiya K, Matsubayashi K (2018) Amok: a mirror of time and people. A historical view of literature. Hist Psychiatry. 25:957154X18803499, doi:10.1177/0957154C18803499.
- 松林公蔵 (2018) 地域在住高齢者における転倒の危険因子—疫学と危険因子の評価スケール. Loco Cure, 2018, Vol 4 (No 3):16(202)-21(207) .

学会発表・招待講演

- 松林公蔵 ニューギニアの一部地域に多発する神経難病. 高知近森病院学術懇話会.
- 松林公蔵 幸せの国ブータンを訪ねて. 高知近森病院学術懇話会.
- 松林公蔵 進化論から見た Sex と Gender. 高知近森病院学術懇話会.
- 松林公蔵 フィールド医学からとらえる高齢医学. 第 60 回日本老年医学学術集会, 教育講演, 京都国際会議場.
- 松林公蔵 “氏” か “育ち” か?. 高知近森病院学術懇話会.

Matsubayashi K Holistic Approach towards Ageing Study- Asian Perspective- , An International Conference 2018 Chulalongkorn Asian Heritage Forum: “Culture of Longevity”. Mandarin Oriental Hotel Bangkok, Thailand.

松林公蔵 診断に苦慮した睡眠障害の一例. 高知近森病院学術懇話会.

松林公蔵 ブータンを訪ねて：「幸福」を考える ブッダセミナー，京都大学吉田泉殿.

松林公蔵 睡眠と病気・文化 高知近森病院学術懇話会.

松林公蔵 3つのパラダイムー医学の場合ー 高知近森病院学術懇話会.

松林公蔵 こころと脳ー幸福感を中心に 高知近森病院学術懇話会.

松林公蔵 記憶と言語の Trade-Off 高知近森病院学術懇話会.

松林公蔵 Gender & Examination 高知近森病院学術懇話会.

松林公蔵 リーダー論 高知近森病院学術懇話会.

(11) 山口 佳三

学術論文

Yamaguchi K, G_2 Geometry in Contact Geometry of Second Order (to appear in Method and Applications of Analysis (memorial volume for John Mather)).

学会発表・招待講演

山口佳三 KIAS Workshop in Geometry, KIAS 研究集会 (Seoul)

「G_2 Geometry in Contact Geometry of Second Order」.

(12) 矢野 誠

学術論文

Yano M, Furukawa Y (2019) “Two-dimensional Constrained Chaos and Time in Innovation: An analysis of industrial revolution cycles,” RIETI Discussion Paper Series, 19-E-008.

Iwasa K, Nishimura K, Yano M (2019) "Trade and indeterminacy revisited," International Journal of Economic Theory, 15-1, 39-51.

Jess B, Nishimura K, Yano M (2019) "Introduction to Market Friction in Macroeconomic Dynamics," International Journal of Economic Theory, 15-1, 3-8.

Fujiwara I, Yano M, "Business Cycles and Indeterminacy in Economic Models: A Special Issue in Honor of Professor Kazuo Nishimura," Studies in Nonlinear Dynamics and Economics, forthcoming.

Aoki T, Nishimura K, Yano M, "Two-Sided Altruism and Time Inconsistency," Studies in Nonlinear Dynamics and Economics, forthcoming.

Fujiu H, Yano M, "Two-sided altruism as a motive for intergenerational transfer,"
Studies in Nonlinear Dynamics and Economics, forthcoming.

学会発表・招待講演

矢野誠 (2018) “Law and economic approach on markets and other decentralized systems” 政策研究大学院大学外交アカデミー, 東京.

矢野誠 (2018) パネリスト, 京都大学経済研究所シンポジウム「日本の研究力のゆくえ」 京都大学, 京都.

Yano M (2018) Keynote Presentation “A New Theory of Money Copper Coins, Gold Standard, Fiat Money and Cryptocurrency,” delivered at Delivered at International Conference on “Market Quality and Economic Growth” Organized by Department of Economics, Seoul National University, Korea.

Yano M (2018) “Blockchain and the IoT – Connecting cyberspace and physical space”, RIETI-TIER-KIET Workshop, Tokyo.

矢野誠 (2018) ブロックチェーンと IoT, RIETI 特別セミナー ブロックチェーンと Society5.0—分散型合意に基づく新しい産業の創出, 経済産業研究所, 東京.

矢野誠 (2018) ブロックチェーン (分散管理台帳) サイバー空間と物的空間をつなぐインターフェース, 科学技術振興機構研究開発戦略センター ブロックチェーン・セミナー, 科学技術振興機構, 東京.

矢野誠, 古川雄一 (2018) “Chaotic Industrial Revolution Cycles and Intellectual Property Protection in an Endogenous-Exogenous Growth Model”, 日本国際経済学会中部支部冬季大会, 名古屋学院大学, 愛知.

矢野誠 (2019) 良質な市場形成に向けた基礎理論と政策の架け橋づくり, 消費者庁 消費者政策推進のための専門人材の育成・確保に関する懇談会 第3回 消費者庁, 東京.

矢野誠 (2019) “Two-dimensional Constrained Chaos and Market Quality Dynamics”, 六甲台セオリーセミナー第101回, 神戸大学, 兵庫.

新聞記事・報道など

矢野誠, クリス・ダイ (2019) RIETI 特別セミナー開催報告 ブロックチェーンと Society5.0—分散型合意に基づく新しい産業の創出, RIETI Highlight Vol. 72.

(13) 細田 衛士

学術論文

Hosoda E (2019) “Does the Financial Responsibility of Producers for Waste Disposal

Give Correct Signal for Design for Environment?”, Western Economic Association International 11th International Conference, Keio University, Tokyo.

(14) 土井 隆雄

学術論文

三木健司, 村田功二, 清水幸夫, 稲谷芳文, 土井隆雄, 宇宙における木材資源の実用性に関する基礎的研究, 宇宙科学技術連合講演会, 1 H04.

吉原育実, 増田凱斗, 三木健司, 土井隆雄, クリノスタットを使った模擬微小重力学生実験系の構築, 宇宙科学技術連合講演会, 1 K06.

三木健司, 村田功二, 清水幸夫, 稲谷芳文, 土井隆雄, 宇宙における木材資源の実用性に関する基礎的研究, 第 34 回宇宙構造・材料シンポジウム, A21.

学会発表・招待講演

土井隆雄 (2018) 日本の有人宇宙活動, 神戸大学国際文化学特殊講義, 神戸大学.

土井隆雄 (2018) 有人宇宙活動へ, 探検大学の誕生, 京都大学.

土井隆雄 (2018) 有人宇宙活動, 宇宙航空理工学科講義, 中部大学.

土井隆雄 (2018) 日本の有人宇宙活動, 京都府立図書館連続講座, 京都府立図書館.

土井隆雄 (2018) 日本の有人宇宙活動, 夜の森の教室, 法然院.

土井隆雄 (2018) 有人宇宙学の創出, 第 32 回大会公開講演会, 宇宙生物科学会.

土井隆雄 (2018) 日本の有人宇宙活動, 金曜天文講話, 京都大学.

土井隆雄 (2018) 有人宇宙活動, 自然と芸術講義, 京都造形芸術大学.

土井隆雄 (2018) 有人宇宙活動, 開学記念フォーラム, 公立小松大学.

土井隆雄 (2018) 宇宙をめざす君たちへ, 創立 100 周年記念式典, 藤枝西高等学校.

土井隆雄 (2019) 有人宇宙学の創出, 第 29 回 SHITA シンポジウム, 日本生物環境工学会.

土井隆雄 (2019) 新たなる挑戦～有人宇宙活動, ダイバーシティ&インクルージョン, コニカミノルタ.

土井隆雄 (2019) 日本の有人宇宙活動, 犬山市民総合大学敬道館卒業式, 犬山市.

土井隆雄 (2019) 宇宙飛行士-有人宇宙活動, 宇宙飛行士講演会, ANA.

土井隆雄 (2019) 日本の有人宇宙活動, 宇宙教育プログラム閉講式, 東京理科大学.

新聞記事・報道など

土井隆雄 天文月報, 宇宙飛行の父ツィオルコフスキー 人類が宇宙へ行くまで.

土井隆雄 京都新聞, 日本人の忘れ物, 千年の歴史を持つ京都で千年先の未来を想像する.

土井隆雄 文藝春秋, 日本人の宇宙からの帰還.

土井隆雄 毎日新聞, 探検大学 開拓者は語る.

土井隆雄 日刊工業新聞, 宇宙人に聞く.

土井隆雄 農機新聞, 論点スペシャル: 今なぜ月を目指すのか 他の惑星到達への足がかり.

土井隆雄 読売新聞オンライン, 火星移住を想定, 京大生 5 人が米で模擬体験.

土井隆雄 京都新聞, 凡語.

土井隆雄 朝日新聞, めざせ「火星開発」京大がプログラム.

土井隆雄 読売新聞, 宇宙開発 自由な発想で.

土井隆雄 農機新聞, 月面で農業生産を.

土井隆雄 京都新聞, 宇宙への原動力 好奇心.

(15) 幸島 司朗

学術論文

Murakami T, et al. (2018) "Metagenomic analyses highlight the symbiotic association between the glacier stonefly *Andiperla willinki* and its bacterial gut community." *Environmental microbiology* 20.11: 4170-4183.

Matsukawa A, Abdul H, Ahmad, Kohshima S (2019) "Social structure and reproduction of long-tailed porcupine (*Trichys fasciculata*). " *Mammalia* 83.1: 23-33.

Kanamori T, Kuze N, Kohshima S (2019) Difference in Population Density of Orangutan between Flooded and Non-flooded Forests. In: Barnett A.A., Matsuda I., Nowak K (eds), *Primates in Flooded Habitats: Ecology and Conservation*, Cambridge University Press, Cambridge. 212-216.

学会発表・招待講演

Kohshima S (2018) Introduction of the new JSPS program "International Core of Excellence for Tropical Biodiversity Conservation focusing on Large Animal Studies", The 7th International Workshop on Tropical Biodiversity and Conservation, Kota Kinabalu, Sabah, Malaysia.

幸島司朗 (2018) 地球はどこでも研究室, 京都新聞出前授業 “ソフィアがやってきた”, 京都市立伏見南浜小学校.

幸島司郎 (2018) 野生動物の行動を理解する, 京都大学野生動物研究センター創立 10 周年記念公開シンポジウム “野生動物との共存を目指して”, 京都大学.

幸島司郎 (2018) “フィールドミュージアム構想” によるアマゾンの生物多様性保全, 2018 年度 SATREPS ブリッジ・ワークショップ, 東京都.

幸島司郎 (2018) アマゾン, アマゾン, ダーウィンルーム講演会, 東京都.

幸島司郎 (2018) 世界の野生動物をフィールドワークする, 法然院 “夜の森の教室”, 京都市.

幸島司郎 (2018) 野生動物の行動を理解する –多様な生物の世界から学ぶ–, 第三回京都大学野生動物研究センター創立 10 周年記念連続セミナーin 丸の内, 東京都.

新聞記事・報道など

幸島司郎 京都新聞, 出前授業 “ソフィアがやってきた!” 氷河の中にも生き物いっぱい.

幸島司郎 毎日新聞, アマゾン研究の拠点開設.

(16) 湯本 貴和

書籍

松田裕之, 佐藤哲, 湯本貴和 (2019) ユネスコ・エコパーク: 地域の実践が育てる自然保護. 京都大学学術出版会. 343.

Terada S, Nackoney RJ, Sakamaki T, Mulavwa NM, Yumoto T, Furuichi T (2019) Use of inundated habitats by great apes in the Congo Basin: A case study of swamp forest use by bonobos at Wamba, Democratic Republic of the Congo. In: Primates in flooded habitats: Ecology and Conservation. Barnett AA, Matsuda I, Nowak K (eds.), Cambridge University Press, Cambridge, 195-211.

湯本貴和・松田裕之 (2019) 全国のシカ問題をユネスコ・エコパークから考える. In: ユネスコ・エコパーク: 地域の実践が育てる自然保護. 松田裕之・佐藤哲・湯本貴和 (編) 京都大学学術出版会, 292-304.

その他の執筆

湯本貴和 (2018) インドネシア・ウジュンクロンの旅, モンキー: 霊長類学からワイルドライフサイエンスへ 3(1):6-7. 公益財団法人日本モンキーセンター, 愛知.

湯本貴和 (2018) 北海道・知床の旅, モンキー: 霊長類学からワイルドライフサイエンスへ 3(2):34-35. 公益財団法人日本モンキーセンター, 愛知.

湯本貴和 (2018) マレーシア・キナバタンガンの旅, モンキー: 霊長類学からワイルドライフサイエンスへ 3(3):62-63. 公益財団法人日本モンキーセンター, 愛知.

湯本貴和 (2019) スリランカ・ホートン高原の旅, モンキー: 霊長類学からワイルドライフサイエンスへ 3(4):90-91. 公益財団法人日本モンキーセンター, 愛知.

湯本貴和 (2018) 生物多様性研究から文化へ. WILDLIFE FORUM 23(1) 6-7.

湯本貴和 (2019) ヒトは生態系の破壊者か創造者か. 文明と哲学 11:203-231.

学術論文

Imai N, Furukawa T, Tsujino R, Kitamura S, Yumoto T (2018) Factors affecting forest area change in Southeast Asia during 1980-2010. PLoS ONE 13(5): e0197391.

辻野 亮, 湯本 貴和 (2018) 屋久島の低地常緑広葉樹林におけるリターフオール動態. 奈良教育大学自然環境教育センター紀要 19: 17-25.

学会発表・招待講演

Take M, Yumoto T (2018) Food transfer occurs between closer individuals?" The 10th International Symposium on Primatology and Wildlife Science, Kyoto, Japan.

Terada S, Nackoney J, Sakamaki T, Yumoto T, Furuichi T (2018) Habitat use of bonobos (*Pan paniscus*) at Wamba: selection of vegetation types for ranging, feeding and night-sleeping. The 27th International Primatological Society Congress, Nairobi, Kenya.

Toge A, Hayakawa T, Okamoto M, Hashimoto C, Yumoto T (2018) DNA metabarcoding reveals dietary insectoverlaps among three species of forest guenons (*Cercopithecus spp.*) in Kalinzu Forest, Uganda". The 27th International Primatological Society Congress, Nairobi, Kenya.

Yumoto T (2019) Characteristics of tropical forests in South America: Special mentions on seed-dispersal by animals. The 12th International Symposium on Primatology and Wildlife Science, Kyoto, Japan.

Yumoto T (2019) Asian tropical forests and plant-animal interactions. Symposium of Integrative Biology: Biodiversity in Asia. Keynote Speech, Kyoto, Japan.

湯本貴和 (2018) 霊長類は深くておもしろい! あなたが知らない美しい野生サルの世界. 第 115 回丸善ゼミナール, 丸善名古屋本店, 名古屋.

湯本貴和 (2018) ヒトとしての力を信じて生きる. 盈進学園第1回ホンモノ講座, 盈進学園, 福山.

湯本貴和 (2018) 世界の熱帯林に霊長類を追って. 第 50 回京大モンキー日曜サ

ロン, 日本モンキーセンター, 犬山.

湯本貴和 (2018) 日本における照葉樹林の歴史. 第4回南方熊楠研究会夏期例会
公開シンポジウム 紀伊半島の植生から考える南方熊楠の神社合祀反対運
動 基調講演, 南方熊楠顕彰会, 田辺市文化交流センターたなべる, 田辺.

湯本貴和 (2018) 霊長類は深くておもしろい. 北高れくちゃあ 2018, 伊丹北高校,
伊丹.

湯本貴和 (2018) わたしたちは里山からなにをえてきたのか. シンポジウム 里
山ルネサンス 基調講演, 石川県立大学, 北國新聞会館ホール, 金沢.

湯本貴和 (2018) 森林リモートセンシングの最前線とヤクスギ巨木林調査の可
能性, 屋久島学ソサエティ第6回大会テーマセッション・コーディネータ,
屋久島町総合センター, 屋久島町.

湯本貴和 (2018) 東南アジアの熱帯林と生物間相互作用. 第6回地球規模課題セ
ミナー, 京都大学生存圏研究所, 宇治.

湯本貴和 (2019) 学術的野生動物管理へ:学術からの展望. シンポジウム 野生動
物と生きる未来:持続可能な野生動物管理システムの構築をめざして リレ
ートーク・討論コーディネータ, 日本学術会議・兵庫県立動物研究センタ
ー, 兵庫県公館, 神戸.

湯本貴和 (2019) 動植物の共生系としての森林. 2018 第3回ときどき斎塾遊学会,
大阪市立総合生涯学習センター, 大阪.

湯本貴和 (2019) 里山の生態系サービス:その歴史の変遷と将来. シンポジウム
SDGs と里山モデル:持続可能社会に向けて 基調講演, 龍谷大学, ピアザ
淡海ヒアザホール, 大津.

(17) 川合 伸幸

著書

川合伸幸 (2018) 凶暴老人 認知科学が解明する「老い」の正体 小学館新書 小
学館.

学術論文

中田龍三郎, 久保(川合) 南海子, 岡ノ谷一夫, 川合伸幸 (2018) 高齢者は渋滞時
に攻撃性が高まる:運転シミュレーターと近赤外線分光法(NIRS)を用いた研
究. 発達心理研究, 29(3), 133-144.

Nakata R, Kubo-Kawai N, Okanoya K, Kawai N (2018) Repeated stops for a red light
induced a left-superior asymmetrical brain activity in the near-infrared
spectroscopy reflecting approach motivation of anger in elderly adults but not in
younger adults. Japanese Psychological Research, 60(4), 327-336.

DOI: 10.1111/jpr.12205.

中田龍三郎・川合伸幸 (2019) 社会的な存在-他者-をプロジェクションする 認知科学, 26(1), 86-97.

Kawai N, Nakagami A, Yasue M, Koda H, Ichinohe N (in press). Common marmosets (*Callithrix jacchus*) evaluate third-party social interactions of human actors but Japanese monkeys (*Macaca fuscata*) do not. Journal of Comparative Psychology.
川合伸幸 (2018). 研究者の職人魂と夏の道場 認知科学, 25(4), 365-366.

学会発表・招待講演

中田龍三郎, 川合伸幸 (2018) 対戦相手の存在は VR ゲームの熱中度を高める一事象関連電位 (P300) による検討ー HCS(ヒューマンコミュニケーション基礎研究会) 沖縄産業支援センター.

中田龍三郎, 川合伸幸 (2018) 自分の食事時の静止画を正立で見ると食事への注意が高まる一事象関連電位 (P300) による検討ー 日本認知科学会第 35 回大会 立命館大学大阪いばらきキャンパス.

邱華琛, 川合伸幸 (2018) 自然風景の中のヘビは素早く正確に検出されるのか? ーフリッカー変化検出課題を用いたヘビ検出の検討 日本認知科学会第 35 回大会 立命館大学大阪いばらきキャンパス.

三浦慎司, 川合伸幸 (2018) 空間的配置が美術作品の印象評価に及ぼす影響 日本認知科学会第 35 回大会 立命館大学大阪いばらきキャンパス.

川合伸幸 (2018) ヘビはなぜこわい? 三省堂名古屋本店 学問喫茶. 三省堂書店名古屋本店.

川合伸幸 (2018) 高齢者の認知の衰えとその予防 平成 30 年度かすがい熟年大学 健康科学コース. 文化フォーラム春日井視聴覚ホール.

川合伸幸 (2018) 心理学・認知科学の魅力 名古屋市立菊里高等学校.

川合伸幸 (2019) 怒りを知り, 怒らない自分になる 日立総合経営研修所 ウェイク講演会 日立総合経営研修所 東京シティキャンパス (TCC).

川合伸幸 (2019) 適切な怒りの抑え方・謝罪の仕方について 国立国会図書館利用者サービス部主催苦情対応研修. 国立国会図書館本部.

新聞記事・報道など

川合伸幸 (2018) 家族でも ひとりごはん, 鏡やネット使い 一緒に, 日本経済新聞.

川合伸幸 (2018) 赤信号 高齢者のほうがイライラ, 中日新聞.

川合伸幸 (2018) 運転中, また赤信号・・・イライラしやすいのは高齢者, 朝日新聞.

川合伸幸 (2018) キレル老人 の実相迫る 高齢者排除してない？, 中日新聞, 東京新聞.

川合伸幸 (2019) キレル高齢者, 長崎新聞 1 月 22 日, 高知新聞 1 月 24 日ほか計 28 誌.

川合伸幸 (2018) NHK 総合テレビ チコちゃんに叱られる 出演・解説.

川合伸幸 (2018) NHK 総合テレビ 名古屋 まるっと！ ニュース番組にて研究論文が紹介.

川合伸幸 (2018) NHKE テレ ウワサの保護者会 出演・解説.

川合伸幸 (2018) NHK 総合テレビ ウワサの保護者会 出演・解説.

川合伸幸 (2018) NHK 総合テレビ 所さん！大変ですよ 出演・解説.

川合伸幸 (2019) NHKE テレ ろんぶ〜ん 出演・解説.

川合伸幸 (2019) CBC ラジオ 多田しげおの気分爽快〜朝から P O N 電話出演・解説.

(18) 津田 一郎
書籍

Tsuda I (2018) Self-organization with constraints — The significance of invariant manifolds. *Advances in Cognitive Neurodynamics (VI)* Chap. 47: 1-4 (J. M. Delgado-Garcia et al. eds. Springer Nature Singapore Pte Ltd.).

Yano T, Goto Y, Nagaya T, Tsuda I, Nara S (2018) A pseudo-neuron device and firing dynamics of their networks similar to neural synchronizing phenomena between far local fields in the brain. *Advances in Cognitive Neurodynamics (VI)* Chap. 14: 1-9 (J. M. Delgado-Garcia et al. eds. Springer Nature Singapore Pte Ltd.).

学会発表・招待講演

津田一郎 (2018) 創発インタラクション：ダイナミクスが生みだす知の可能性, シンギュラリティーサロン, サンケイプラザ大手町東京都.

津田一郎 (2018) 創発インタラクション：ダイナミクスが生みだす知の可能性, シンギュラリティーサロン, ナレッジサロン大阪市.

津田一郎 (2018) 創発インタラクションの可能性：脳科学に基づく創発型人工知能を目指して, 第 32 回人工知能学会オーガナイズドセッション「自律・創発・汎用 AI アーキテクチャー」, 鹿児島市 城山観光ホテル.

津田一郎 (2018) 創発インタラクションの意義：機能分化に対する変分原理と数理モデル, 全脳アーキテクチャー勉強会, 東京大学医学部 鉄門講堂.

津田一郎 (2018) AI に必要な要素：脳と身体, 第 2 回ワークショップ「互いに矛盾する分散制御と中枢制御の数理神経科学的融合」, 東北大学電気通信研究

所.

Tsuda I (2018) Science of complex systems: mathematical point of view. Invited talk.

Chubu University International Conference on Seeking for a New Conception of Science, The Future of Scientific Culture in East Asia, Chubu University.

津田一郎 (2018) 脳と心の創発インタラクションと発達：人工の心と自然の脳は対話可能か，日本発達神経科学学会第7回学術集会，東京大学先端科学技術研究センター ENEOS ホール.

津田一郎 (2018) 拘束条件付き自己組織化理論の展開：脳神経ダイナミクスと創発 AI，関西医科大学大学院講座，第771講.

津田一郎 (2018) 拘束条件付き自己組織化：その枠組みと脳の機能分化への応用，物理学会九州支部例会，大分大学.

Tsuda I (2019) Emerging interactions yielding functional differentiation, The 1st International Symposium on Symbiotic Intelligent Systems, Knowledge Theater in Grand Front Osaka, Umeda, Osaka, Japan.

津田一郎 (2019) 心はすべて数学である，数学の創成：生命と社会の理（ことわり）のために，北海道大学数学教室.

津田一郎 (2019) Artificial mind, real brain: are they commensurable? Emerging Perspective Program, 互いに矛盾する分散制御と中枢制御の数理神経科学的融合3，知の館 東北大学.

津田一郎 (2019) 複雑系科学からの創発 AI—人工の心と現実の脳は対話可能か？，大阪大学浅田稔教授退職記念国際シンポジウム，大阪大学吹田キャンパスコンベンションセンター.

Tsuda I (2019) Functional differentiation via a variational principle. HangZhou Forum on Cognitive Neuroscience and Intelligent Application, HangZhou Jinxi Hotel.

津田一郎 (2018) 拘束条件の意味と具体化, RIMS 共同研究「Mathematical Analysis of Self-organization with Constraints」，京都大学数理解析研究所 111 号室.

梶川駿介（他 津田一郎 含む 13 名）(2018) 発作時直流緩電位 (Ictal DC shifts) の類型化の試み：時定数 10 秒と 2 秒の比較とクラスター解析の試み，日本臨床神経生理学会学術集会，東京ファッションタウンビル TFT・有明.

津田一郎 (2019) 変分原理による脳の機能分化，基盤研究 B&基盤研究 C 合同ワークショップ，OIST シーサイドハウス.

津田一郎 (2019) 脳情報生成におけるカオスの役割，基盤研究 B&基盤研究 C 合同ワークショップ，OIST シーサイドハウス.

津田一郎 (2018) An Exploration of the principle of emerging interactions and its Applications to Functional Differentiations, CREST 共生インタラクション 第二回領域会議，クロスウェーブ船橋.

津田一郎 (2019) 複雑系科学からの創発 AI－人工の心と現実の脳は対話可能か？, 脳領域／個体／集団間のインタラクション創発原理の解明と適用シンポジウム, TKP 名古屋駅前カンファレンスセンター.

新聞記事・報道など

津田一郎 大学ジャーナル オンライン, 中部大学教授による 31 年前の数理解モデルをブラジルの数学者らが証明.

(19) 牛田 一成

学術論文

Matsubayashi M, Tsuchida S, Kobayashi A, Shibahara T, Nakamura H, Murata K,

Ushida K (2018) Molecular identification of two *Eimeria* species, *E. uekii* and *E. raichoi* as type B, in wild Japanese rock ptarmigans, *Lagopus muta japonica*. IJP: Parasites and Wildlife 7(2):243-250. doi.org/10.1016/j.ijppaw.2018.06.005.

Ueda A, Kobayashi A, Tsuchida S, Yamada T, Murata K, Nakamura H, Ushida K (2018) Cecal Microbiome Analyses on Wild Japanese Rock Ptarmigans (*Lagopus muta japonica*) Reveals High Level of Coexistence of Lactic Acid Bacteria and Lactate-Utilizing Bacteria. Microorganisms 6(3), 77; <https://doi.org/10.3390/microorganisms6030077>.

Tsuchida S, Kakooza S, Mbehang Nguema PP, Wampande EM, Ushida K (2018) Characteristics of Gorilla-Specific *Lactobacillus* Isolated from Captive and Wild Gorillas. Microorganisms 6(3), 86; <https://doi.org/10.3390/microorganisms6030086>.

Okubo T, Yossapol M, Maruyama F, Wampande E.M, Kakooza S, Ohya K, Tsuchida S, Asai T, Kabasa JD, Ushida K (2019) Phenotypic and genotypic analyses of antimicrobial-resistant bacteria in livestock in Uganda. Transboundary and Emerging Diseases 66(1) 317-326 [Epub ahead of print] . doi: 10.1111/tbed.13024.

Sagawa T, Fukuchi S, Bodington D, Tsuchida S, Mbehang Nguema PP, Mori H, Ushida K (2019) Genomic Analyses of *Bifidobacterium moukalabense* Reveal Adaptations to Frugivore/Folivore Feeding Behavior. Microorganisms, 99; <https://doi.org/10.3390/microorganisms7040099>.

学会発表・招待講演

Kobayashi A, Tsuchida S, Ueda A, Yamada T, Ushida K, Nakamura H (2018) The Significance of Coprophagy in Chicks of Japanese Rock Ptarmigan, 14th

International Grouse Symposium Utah State University (2018) .

Tsuchida S, Kobayashi A, Murata K, Ushida K (2018) Isolation of Cecal Bacteria from Wild Japanese Rock Ptarmigans and their Functionalities, 14th International Grouse Symposium Utah State University (2018) .

服部考成, 岡有香里, 川名修一, 緒方是嗣, 土田さやか, 小林篤, 中村隼明, 中村浩志, 牛田一成 (2018) LC-MS/MS によるニホンライチョウ糞便中の代謝物測定-野生・飼育ニホンライチョウの比較- 第 27 回環境化学討論会 (2018) .

牛田一成 (2018) 第 114 回サイエンスカフェ in 名古屋 動物の うんち の研究から, わかること-野生動物の生存を助ける腸内細菌の世界- 主催: 日本農芸化学会中部支部, 名古屋市科学館, 観客約 40 人.

牛田一成 (2018) 日本哺乳類学会 2018 年度大会一般公開シンポジウム 動物園動物の比較栄養学と比較細菌学 主催: 日本哺乳類学会, 信州大学伊那キャンパス, 参加者約 200 人.

牛田一成 (2018) 第 70 回日本生物工学会大会ランチョンセミナー 野生動物の腸内細菌叢解析と糞便メタボローム解析 主催: 島津製作所, 関西大学第 4 学舎, 参加者約 150 人.

牛田一成 (2018) 第 18 回ライチョウ会議新潟妙高大会 野生ニホンライチョウを特徴付ける腸内細菌とその性質を生かした飼料開発 主催: 実行委員会, 新潟県, 妙高市, ふれあい会館, 参加者約 300 人.

牛田一成 (2019) ライチョウ基金シンポジウム 2019 ライチョウの未来と動物園の役割 主催: 富山市ファミリーパーク, 富山県総合福祉会館サンシップ とやま・福祉ホール, 観客約 200 人.

松林誠, 土田さやか, 小林篤, 芝原友幸, 中村浩志, 村田浩一, 牛田一成 (2018) 第 24 回日本野生動物医学会大会 ニホンライチョウに寄生するコクシジウムの寒冷地における生存生態およびその分子系統樹解析.

新聞記事・報道など

牛田一成 (2018) 岳人 2018 年 6 月号, 腸内から見える新たな リアル.

松林誠, 土田さやか, 小林篤, 村田浩一, 牛田一成 (2018) NHK ニュース関西 ニホンライチョウに寄生する病原性原虫研究の成果について 5 分ほど紹介.

松林誠, 土田さやか, 小林篤, 村田浩一, 牛田一成 (2018) 成果の記者発表 於大阪府立大学, ニホンライチョウに寄生する病原性原虫の新種を特定—生息数増加に貢献, 新種を ライチョイ と命名—

<https://www.osakafu-u.ac.jp/press-release/pr20180720/>.

牛田一成, 土田さやか (2018) 朝日新聞 全国版朝刊教育面, 新鮮なふん 追い

求めて.

牛田一成, 土田さやか (2018) 日本経済新聞 電子版, ライチョウ繁殖のカギは腸内, 相次ぐ死防げるか.

(20) 荒井 迅

学術論文

Arai Z, Ishii Y, Takahasi H (2018) "Boundary of the horseshoe locus for the Hénon family", SIAM Journal on Applied Dynamical Systems 17-3, 2234-2248.

Tsutsumi T, Ono Y, Arai Z, Taketsugu T "A visualization of the intrinsic reaction coordinate and global reaction route map by classical multidimensional scaling", to appear in Journal of Chemical Theory and Computation.

学会発表・招待講演

荒井迅 (2018) 力学系の大域的な分岐とその計算について, 岩手数理科学セミナー, 岩手大学.

荒井迅 (2018) 化学反応経路網の幾何学的理解に向けて, 日本応用数理学会 2018 年度年会, 名古屋大学.

Arai Z (2018) The Conley index for the real and complex Hénon maps, Algebraic Topology in Data and Dynamics, Montana State University, USA.

Arai Z (2018) On the monodromy and period doubling bifurcations of the Hénon map, Real and Complex Dynamics of Hénon's Map, 慶應大学.

(21) 松田 一希

書籍

Nowak K, Barnett AA, Matsuda I (2019) Primates in Flooded Habitats: Ecology and Conservation. Cambridge University Press, Cambridge.

学術論文

Hayakawa T, Nathan S, Stark DJ, Saldivar DAR, Sipangkui R, Goossens B, Tuuga A, Clauss M, Sawada A, Fukuda S, Imai H, Matsuda I (2018) First report of foregut microbial community in proboscis monkeys: are diverse forests a reservoir for diverse microbiomes? Environ Microbiol Rep 10:655-662. doi: 10.1111/1758-2229.12677.

Matsuda I, Abram NK, Stark DJ, Sha JCM, Ancrenaz M, Goossens B, Lackman I, Tuuga A, Kubo T (2018) Population dynamics of the proboscis monkey *Nasalis larvatus* in the Lower Kinabatangan, Sabah, Borneo, Malaysia. Oryx:1-8. doi:

10.1017/s0030605318000467.

- Barnett AA, Hawes JE, Pontes ARM, Layme VMG, Chism J, Wallace R, Cardoso NdA, Ferrari SF, Beltrão-Mendes R, Wright B, Haugaasen T, Cheyne SM, Bezerra BM, Matsuda I, dos Santos RR (2019) Survey and Study Methods for Flooded Habitat Primatology. In: Nowak K, Barnett AA, Matsuda I (eds) Primates in Flooded Habitats: Ecology and Conservation. Cambridge University Press, Cambridge 33-43.
- Bennett AC, Parolin P, Ferreira LV, Matsuda I, Burgess N (2019) Flooded and Riparian Habitats in the Tropics Community Definitions and Ecological Summaries. In: Nowak K, Barnett AA, Matsuda I (eds) Primates in Flooded Habitats: Ecology and Conservation. Cambridge University Press, Cambridge, 2-9.
- Bernard H, Matsuda I, Hanya G, Phua M-H, Oram F, Ahmad AH (2019) Feeding Ecology of the Proboscis Monkey in Sabah, Malaysia, with Special Reference to Plant Species-Poor Forests. In: Nowak K, Barnett AA, Matsuda I (eds) Primates in Flooded Habitats: Ecology and Conservation. Cambridge University Press, Cambridge, 89-98.
- Matsuda I, Nakabayashi M, Otani Y, Yap SW, Tuuga A, Wong A, Bernard H, Wich SA, Kubo T (2019) Comparison of plant diversity and phenology of riverine and mangrove forests with those of the dryland forest in Sabah, Borneo, Malaysia. In: Nowak K, Barnett AA, Matsuda I (eds) Primates in Flooded Habitats: Ecology and Conservation. Cambridge University Press, Cambridge, 15-28.
- Lhota S, Sha JCM, Bernard H, Matsuda I (2019) Proboscis monkey conservation: beyond the science. In: Behie AM, Teichroeb JA, Malone NM (eds) Primate Research and Conservation in the Anthropocene. Cambridge University Press, Cambridge 182-196.
- Ruslin F, Matsuda I, Md-Zain BM (2019) The feeding ecology and dietary overlap in two sympatric primate species, the long-tailed macaque (*Macaca fascicularis*) and dusky langur (*Trachypithecus obscurus obscurus*), in Malaysia. Primates 60:41-50. doi: 10.1007/s10329-018-00705-w.

学会発表・招待講演

- Matsuda I (2018) Proboscis Monkeys - The Big Noses of Borneo- The 1st AsiaEvo Conference, Sheraton Dameisha Resort, Shenzhen, China.
- Matsuda I, (2018) Nathan S, Stark DJ, Saldivar DAR, Sipangkui R, Goossens B, Tuuga A, Clauss M, Sawada A, Fukuda S, Imai H, Hayakawa T Diverse forests are a reservoir for abundant forestomach microbiome in a free-ranging folivorous

primate, the proboscis monkeys The 7th International Seminar on Biodiversity and Evolution, Kota Kinabalu, Malaysia.

Matsuda I (2019) Ruminant-Like Primate, Proboscis Monkey in Borneo the 9th Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societies Congress (FAOPS2019), Kobe Convention Center, 神戸.

松田一希 (2018) 先端技術とフィールド調査—面白い研究ってなんだろう?— 第34回日本霊長類学会大会公開シンポジウム武蔵大学, 東京.

松田一希 (2019) いつ産むべきか—霊長類の出産季節性の起源を求めて— 脳領域／個体／集団間のインタラクション創発原理の解明と適用 第二回公開シンポジウム, TKP 名古屋駅前カンファレンスセンター, 名古屋.

松田一希 (2018) テングザル~破壊される熱帯雨林の現状~ OTANIサイエンス WEEKENDS, 札幌大谷中学校, 札幌.

松田一希 (2018) サルを追ってジャングルへ: テングザル研究最前線 中部大学・公益財団法人日比科学技術振興財団主催 公開講演会, 中部大学, 春日井.

早川卓志, 澤田晶子, 川口芳矢, 鈴木健太, 小林智男, 福田真嗣, 松田一希 (2018) ドウクラングール乳児の腸内細菌叢の適応 第34回日本霊長類学会大会公開シンポジウム武蔵大学, 東京.

松田一希, Carretero-Pinzón X, Abram NK, Stark DJ, Nathan SKSS, Ramirez DAR, Goossens B, Tuuga A (2018) マングローブ林におけるテングザルの遊動様式 第34回日本霊長類学会大会, 武蔵大学, 東京.

橋戸南美, 糸井川壮大, 早川卓志, Melin AD, 河村正二, Chapman CA, 松田一希, 今井啓雄 (2018) 同所的に生息する旧世界ザルにおける味覚受容体の遺伝的・機能的多様性, 第34回日本霊長類学会大会, 武蔵大学, 東京.

松田一希, Nathan S, Stark D, Goossens B, Ramirez D, 香田啓貴 (2019) テングザルは鼻が武器? 犬歯 vs. 鼻 プリマーテス研究会, 日本モンキーセンター, 犬山.

▶ Ⅲ. 創発大学院の研究教育活動

創発学院では、専任教員が中心となって研究教育活動の一環として、創発セミナーと学術レクチャーを開催している。創発セミナーは、異なる分野の研究者間の意見交換の場であり、気軽に意見交換ができる、20～30人程度の小規模なセミナーで、隔月で開催している。今年度は5度開催した。また、創発セミナーよりもより専門性が高く、主に学生への講義スタイルを意識した研究教育活動として学術レクチャーを1度開催した。さらに本年度からは、中部大学の学内運営に関係する講演会を、第4の催し物として学長コロキウムと名付け1度開催した。

1. 創発セミナー

第9回 創発セミナー

日時：2018年6月18日（月）15時30分～17時30分

会場：創発学院（16号館10階）

講師：川合伸幸（名古屋大学情報学研究科准教授，中部大学創発学院客員准教授）

齋藤洋典（中部大学人文学部教授，人間力総合教育センター副センター長，創発学院兼務）

タイトル：怒りの認識技術とその応用可能性（川合）

意味を後にして（齋藤）（参加人数 37名）



第10回 創発セミナー

日時：2018年9月20日（木）15時30分～17時00分

会場：創発学院（16号館10階）

講師：平田豊（中部大学工学部ロボット理工学科教授）

タイトル：目から知り，操作する脳状態（参加人数47名）

第10回
**目から知り，
操作する脳状態**

創発セミナー

参加自由
(事前申込不要)

日程 9月20日（木）
時間 15時30分～17時00分
場所 創発学院（16号館10階）
講師 平田豊
中部大学工学部
ロボット理工学科 教授
専門：神経科学、生体情報工学

創発セミナーとは
まだ教科書にも載っていないような最先端の学習にふれてみませんか。
目の内から読み取って見える世界トップレベルの最先端を、直接知ることができます。
またとないチャンスです。学生や教員という立場や、それぞれの得意分野の領域を超えて
自由に交流することで、自分をステップアップさせてみたい皆さん、大歓迎です！

創発学院
MAIL: sohatsu@office.chubu.ac.jp TEL: 0568-51-9520
WEBSITE: www.cuaes.jp

CUAES



第11回 創発セミナー

日時：2018年10月30日（火）16時00分～18時00分

会場：創発学院（16号館10階）

講師：友永雅己（京都大学霊長類研究所教授，日本モンキーセンター学術部部長）

林美里（京都大学霊長類研究所助教，日本モンキーセンター学術部副部长）

タイトル：野生の認知科学をめざして（友永）

物とかかわる知性の発達と進化（林）（参加人数 47 名）

創発セミナー

第11回

日程 **10月30日（火）**

時間 **16時00分～18時00分**

場所 **創発学院（16号館10階）**

第1部 野生の認知科学をめざして
講師：友永雅己
京都大学霊長類研究所 教授
日本モンキーセンター学術部 部長

第2部 物とかかわる知性の発達と進化
講師：林美里
京都大学霊長類研究所 助教
日本モンキーセンター学術部 副部长

参加自由
（事前申し込み不要）

創発セミナーとは
本学創発学部にも属していないような最先端の学問にふれてみたい、
国内外から講師として招き寄るトップレベルの研究者と、直接話せる
またとないチャンスです。学生や教員という立場や、それぞれの学問の垣根を越えて
自由に交流することで、自分をステップアップさせてみたい皆さん、大歓迎です！

創発学院
MAIL: sohatsu@office.chubu.ac.jp TEL: 0568-51-9520
WEBSITE: www.cuaes.jp

CUAES



第12回 創発セミナー

日時：2019年1月18日（金）16時00分～18時00分

会場：創発学院（16号館10階）

講師：小長谷有紀（国立民族学博物館，超越フィールド科学研究部教授

タイトル：モンゴル遊牧民の暮らしにみる，技法と世界観（参加人数 46 名）

第12回
創発セミナー
モンゴル遊牧民の暮らしにみる、技法と世界観

日程 1月18日（金）
時間 16時00分～18時00分
場所 創発学院（16号館10階）
講師 小長谷 有紀

参加自由
（参加費は不要）

お問い合わせ 創発学院
MAIL: sohatsu@office.chubu.ac.jp TEL: 0568-51-9520



第13回 創発セミナー

日時：2019年3月6日（金）16時00分～17時30分

会場：創発学院（16号館10階）

講師：平田聡（京都大学野生動物研究センター副センター長，教授）

タイトル：仲間とかかわる心の進化（参加人数 29 名）

創発セミナー

第13回
**仲間とかかわる
心の進化**

日程 **3月6日（水）**

時間 **16時00分～17時30分**

場所 **創発学院（16号館10階）**

講師 **平田聡**

参加
自由
（事前申し込み不要）

京都大学野生動物研究センター
副センター長、教授
専門：比較認知科学

創発セミナーとは
まだ動物界にも見つけていないような疑問を頭の隅にふりてみてください。
国内外から講師として招く世界トップレベルの研究者と、意見交換する
またとないチャンスです。学生や教員らいろいろな分野、それぞれの分野の垣根を超えて
自由に交流することで、自分をステップアップさせてみたい皆さん、大歓迎です！

創発学院
MAIL: sohatsu@office.chubu.ac.jp TEL: 0568-51-9520
WEBSITE: www.cuaes.jp





2. 学術レクチャー

第3回 学術レクチャー

日時：2018年7月23日（月）15時30分～17時00分

会場：クリエイティブ・ラボB（不言実行館 5階）

講師：細田衛士（慶應義塾大学経済学部教授，創発学術院客員教授）

タイトル：限りある自然資源を将来世代に残すために（参加人数 39名）

主催：中部大学創発学術院

第3回
学術レクチャー
限りある自然資源を
将来世代に残すために
環境経済学が提言する資源の循環利用

日程 7月23日（月）
時間 15時30分～17時00分
場所 クリエイティブ・ラボB
（不言実行館 5階）
講師 細田 衛士
慶應義塾大学経済学部 教授
創発学術院 客員教授
専門：環境経済学

参加
自由
（要事前申込）

事前のお申込みをお願いいたします
中部大学の教職員・学生の方はどなたでも参加できます
お申込み：QRコードから申し込みフォームへ
お問い合わせ先：創発学術院
MAIL：sohatsu@office.chubu.ac.jp
TEL：0568-51-9520（内線8825）

CUAES



3. 学長コロキウム

第2回 学長コロキウム

日時：2018年4月23日（木）15時30分～17時00分

会場：創発学術院（16号館10階）

講師：小谷元子（東北大学教授）

タイトル：世界トップレベル研究拠点における挑戦（参加人数 24 名）

要旨

2007年に開始した文科省世界トップレベル研究拠点形成（WPI）事業により東北大学に高等材料科学研究所（AIMR）が設置された。WPI 拠点は世界から見える国際的な研究所を目指すもので、トップレベルの研究、国際化、システム改革、異分野融合による新領域への挑戦という4つのミッションを持ち、World Premier Status を達成することが求められた。10年間の挑戦の結果、AIMR は WPI 拠点としての目標を達成したという評価をいただき、大学の恒久的な研究所として今後もそのステータスを維持・発展していく。研究所はそこで研究をする研究者のためにある。特に、世界中から将来のリーダーとなる意欲的な若手研究者が集まり、独創的な発想で研究を行うこと、その結果として国際頭脳循環のなかで活躍すること、これが可能な研究環境と支援体制を提供できることが国際的な研究所として重要である。10年間の挑戦のなかで得た経験と課題を議論したい。（参加人数 24 名）

主催：中部大学
共催：創発学術院

学長コロキウム 第2回
世界トップレベル研究拠点における挑戦

日程 **4月23日**（月）
時間 **15時30分～17時00分**
場所 **創発学術院（16号館10階）**
講師 **小谷 元子**
東北大学 教授

参加自由

2007年に開始した文科省世界トップレベル研究拠点形成（WPI）事業により東北大学に高等材料科学研究所（AIMR）が設置された。WPI 拠点は世界から見える国際的な研究所を目指すもので、トップレベルの研究、国際化、システム改革、異分野融合による新領域への挑戦という4つのミッションを持ち、World Premier Status を達成することが求められた。10年間の挑戦の結果、AIMR は WPI 拠点としての目標を達成したという評価をいただき、大学の恒久的な研究所として今後もそのステータスを維持・発展していく。研究所はそこで研究をする研究者のためにある。特に、世界中から将来のリーダーとなる意欲的な若手研究者が集まり、独創的な発想で研究を行うこと、その結果として国際頭脳循環のなかで活躍すること、これが可能な研究環境と支援体制を提供できることが国際的な研究所として重要である。10年間の挑戦のなかで得た経験と課題を議論したい。

お問い合わせ先：創発学術院
MAIL：sohatsu@office.chubu.ac.jp
TEL：0568-51-9520（内線8825）

AIMR



▶ IV. 社会贡献

1. 創発シンポジウム

(1) 高校生対象特別講演会

日時：2018年5月19日（土）9時30分～11時35分

会場：中部大学 アクティブホール

講師：山本尚（中部大学総合工学研究所長，分子性触媒研究センター長，創発学術院兼務）

タイトル：民族性と科学技術のジレンマ（参加人数 263 名）

日程

9：30	開場
10：00～10：05	挨拶（山田公夫常勤理事）
10：05～11：20	講演
11：20～11：35	質疑応答

各国の科学技術はそれぞれの民族性を反映した個性を持っている。米国、ドイツ、フランス、そして我が国の科学技術の開発はそれぞれの民族独自の個性を持って発展してきた。一方、それぞれの民族性には様々なタイプがあり、固有の民族性とその国の科学技術の発展に見えない大きな影響を与えている。ユングによれば、我が国の民族性は内向型で感覚・気持ち型であり、外向型で直感・気持ち型のアメリカとの違いは明らかで、知らず知らずのうちに科学技術の手法に日本民族に見られる特色が色濃く現れている。

ここでは各国の民族性の特色を述べ、それを反映する科学技術の発展についての関連性と、民族性と科学技術とのジレンマを述べたい。特に、「破壊的イノベーション」と「持続的イノベーション」とのバランス、それに向けてのあべき応用研究と純正研究の住み分け、また、それぞれを下支えする真の基礎研究のあり方、教育面では自己表現の教育のあり方、問題を発見する能力育成など、教育、研究上の様々な課題への大きな影響を考える。

中部大学創発学術院主催
高校生対象特別講演会

CUAES

「民族性と科学技術のジレンマ」

場所： 中部大学 アクティブホール

日程： 2018年5月19日（土）
9：30 開場
10：00～10：05 挨拶（山田公夫常勤理事）
10：05～11：20 講演
11：20～11：35 質疑応答

講師： 山本尚 中部大学総合工学研究所長
分子性触媒研究センター長
創発学術院兼務



各国の科学技術はそれぞれの民族性を反映した個性を持っている。米国、ドイツ、フランス、そして我が国の科学技術の開発はそれぞれの民族独自の個性を持って発展してきた。一方、それぞれの民族性には様々なタイプがあり、固有の民族性とその国の科学技術の発展に見えない大きな影響を与えている。ユングによれば、我が国の民族性は内向型で感覚・気持ち型であり、外向型で直感・気持ち型のアメリカとの違いは明らかで、知らず知らずのうちに科学技術の手法に日本民族に見られる特色が色濃く現れている。

ここでは各国の民族性の特色を述べ、それを反映する科学技術の発展についての関連性と、民族性と科学技術とのジレンマを述べたい。特に、「破壊的イノベーション」と「持続的イノベーション」とのバランス、それに向けてのあべき応用研究と純正研究の住み分け、また、それぞれを下支えする真の基礎研究のあり方、教育面では自己表現の教育のあり方、問題を発見する能力育成など、教育、研究上の様々な課題への大きな影響を考える。



(2) 第27回 JST 数学キャラバン 拡がりゆく数学 in 春日井

日時：2018年7月7日（土）13時50分～18時00分

会場：中部大学 22号館1階2215講義室（参加人数67名）

日程

- 13：20～ 受付
- 13：50～14：00 開会 挨拶
- 14：00～14：45 川ノ上帆（京都大学数理解析研究所助教）
「平面上の直線の話」
- 15：00～15：45 鈴木咲衣（東京工業大学情報理工学院准教授）
「結び目の数学」
- 16：00～16：45 楠岡成雄（東京大学名誉教授）
「不確実性を利用する ―確率論の応用―」
- 17：00～17：30 森重文（京都大学高等研究院特別教授）
山口佳三（北海道大学名誉教授）
- 17：30～18：00 講演者との懇談会
- 18：00～ 閉会

主 催 中部大学創発学術院
共 催 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）



(3) 創発学院 併設校対象特別講義

日時：2019年3月14日（木）13：30～15：00

会場：アクティブホール（不言実行館1階）

司会：松田一希（参加人数 260 名）

日程

【第1部：生物学】

13：30～14：00 「分かちあう心の進化」（講師：松沢哲郎）

14：00～14：15 質疑応答

【第2部：数学】

14：15～14：30 「私の数学まなびはじめ」（講師：森重文）

14：30～14：50 「3月14日と7月22日」（講師：荒井迅，コメント：津田一郎）

14：50～15：00 質疑応答



2. 雑誌モンキーの刊行

創発学術院では、公益財団日本モンキーセンターが発行する雑誌「モンキー」の編集、印刷（中部大学ドキュメントセンター利用）を全面的にサポートした。今年度は3巻1-4号の発行をサポートした。

編集長

友永雅己（京都大学，日本モンキーセンター）

副編集長

平田聡（京都大学）

編集委員

赤見理恵（日本モンキーセンター）

伊谷原一（京都大学，日本モンキーセンター）

今井由香（日本モンキーセンター）

江藤彩子（日本モンキーセンター）

川上文人（中部大学，日本モンキーセンター）

北原愛子（京都大学，日本モンキーセンター）

木村直人（日本モンキーセンター）

幸島司郎（京都大学）

齋藤亜矢（京都造形芸術大学）

左海陽子（京都大学）

新宅勇太（京都大学，日本モンキーセンター）

高野智（日本モンキーセンター）

早川卓志（京都大学，日本モンキーセンター）

林美里（京都大学，日本モンキーセンター）

平田加奈子（京都大学）

松沢哲郎（京都大学，日本モンキーセンター）

松田一希（中部大学，日本モンキーセンター）

山梨裕美（京都市動物園）

湯本貴和（京都大学）

綿貫宏史朗（京都大学，日本モンキーセンター）

内容

3 巻 1 号 (2018 年 6 月 1 日発行)

表紙：地獄谷野猿公苑の温泉に入るニホンザル (撮影：森研人)

表紙の言葉：松沢哲郎

巻頭言：(尾池和夫)

連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第 6 回 知識の源泉は本と人だった：
(山極壽一)

連載「氷河から熱帯雨林まで」第 5 回 見えないカワイルカを音で「見る」：
(幸島司郎)

連載「生態学者が往く」第 2 回 インドネシア・ウジュンクロンの旅：(湯本貴和)

連載「自然と芸術」第 6 回 絵筆をもった類人猿：(齋藤亜矢)

連載「大型類人猿探訪」第 9 回 親子のなりたち：後編：(林美里)

連載「サルの住む森」第 9 回 何度も味わうテングザル：(松田一希)

連載「ウマ学ことはじめ」第 9 回 ウマの群れ間関係：(山本真也)

連載「海外生息地研修」第 9 回 ニュージーランドの旅：アホウドリ，ペンギン，
オットセイ：(松沢哲郎)

連載「環境教育実践」第 9 回 プリマーテス研究会 中高生の研究発表：(新宅勇太)

連載「霊長類学 70 周年」第 2 回 空から見る幸島：(舟橋昂)

飼育下ゾウの福祉に対する 4 つの指針：ラマン スクマール (齋藤美保 訳)

ニホンザルからアフリカのサルへ：「種間相互作用」を追いかけて：(峠明杜)

書評「世界で一番美しいサルの図鑑」：(湯本貴和)

書評「野生チンパンジーの世界」：(伊谷原一)

ご寄附のお願い・イベント情報

編集後記：伊谷原一



3 巻 2 号 (京都大学野生動物研究センター10 周年記念) (2018 年 9 月 1 日発行)

表紙：アルガ山のウマ (撮影：平田聡)

表紙の言葉：松沢哲郎

巻頭言：(村山美穂)

連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第 7 回 ゴリラの目でアマゾンを歩く：(山極壽一)

連載「氷河から熱帯雨林まで」第 6 回 アマゾンに「フィールドミュージアム」を作る：(幸島司郎)

連載「生態学者が往く」第 3 回 北海道・知床の旅：(湯本貴和)

連載「自然と芸術」第 7 回 野生動物研究センターの 10 年と私の 10 年：(尾池和夫)

連載「大型類人猿探訪」第 10 回 チンパンジーとヒトの発達をはかる「ものさし」：
(林美里)

連載「サルの住む森」第 10 回 植物同定との戦い：(松田一希)

連載「ウマ学ことはじめ」第 10 回 出産と交尾：(平田聡)

連載「海外生息地調査」第 10 回 熱帯雨林の外側にすむボノボ：(伊谷原一)

連載「環境教育実践」第 10 回 飼育員が造ったツリーハウス：(鏡味芳宏)

連載「霊長類学 70 周年」第 3 回 屋久島のニホンザル研究：(杉浦秀樹)

連載「動物園・水族館だより」第 1 回 百万頭のゾウの国とのつながり：(田中正之)
空飛ぶ鳥の視点を得る：(狩野文浩)

書評「分かちあう心の進化」：(ユ リラ)

書評「野生動物 追いかけて見つめて知りたいキミのこと」：(木下こづえ)

ご寄附のお願い・イベントのご案内

編集後記： 伊谷原一



3 巻 3 号 (2018 年 12 月 1 日発行)

表紙：たき火にあたるサル (撮影：高野智)

表紙の言葉：松沢哲郎

巻頭言：(伊谷原一)

連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第 8 回 対話を重んじる伝統：(山極壽一)

連載「氷河から熱帯雨林まで」第 7 回 東京の空に舞うインコの群：(幸島司郎)

連載「生態学者が往く」第 4 回 マレーシア・キナバタンガンの旅：(湯本貴和)

連載「自然と芸術」第 8 回 隠岐の自然と芸術：(齋藤亜矢)

連載「大型類人猿探訪」第 11 回 チンパンジーのいる暮らし：(林美里)

連載「サルの住む森」第 11 回 食べる葉，食べない葉：(松田一希)

連載「ウマ学ことはじめ」第 11 回 オスがあやつる群れの性質：

(リングホーファー萌奈美)

連載「海外生息地調査」第 11 回 ダナムバレイの森でオランウータンを追う：

(金森朝子)

連載「環境教育実践」第 11 回 笹ヶ峰実習に参加して：(赤見理恵)

連載「霊長類学 70 周年」第 4 回 餌付け，人付け，サル付け ～サル学における調査法の用語の起源：(伊沢紘生)

連載「動物園・水族館だより」第 2 回 野生のツシマヤマネコを訪ねる ～動物園と域外保全～：(山梨裕美)

ふるさとに帰るウマたちの話：(小長谷有紀)

「塗魂ペインターズ」のボランティア塗装：(今井由香)

ご寄附のお願い・イベントのご案内

編集後記： 友永雅己



3 卷 4 号 (2019 年 3 月 1 日発行)

表紙：ブータン国王との写真 (提供：ブータン王室)

表紙の言葉：松沢哲郎

巻頭言：(竹下景子)

連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第 9 回 ブータンに幸せのルーツを求めて：
(山極壽一)

連載「氷河から熱帯雨林まで」第 8 回氷河に住む微生物はすごい！：(幸島司郎)

連載「生態学者が往く」第 5 回スリランカ・ホートン高原の旅：(湯本貴和)

連載「自然と芸術」第 9 回 ヒト以外のヒト科の絵画展：(齋藤亜矢)

連載「大型類人猿探訪」第 12 回 チンパンジーの喜怒哀楽：(林美里)

連載「サルに住む森」第 12 回 先端技術がときあかす複胃の微生物：(松田一希)

連載「ウマ学ことはじめ」第 12 回 野生ウマの死とオオカミ：

(レナータ メンドンサ・リングホーファー萌奈美)

連載「海外生息地調査」第 12 回 エチオピアの高地にくらすゲラダヒヒ：(赤見理恵)

連載「環境教育実践」第 12 回 『霊長類図鑑 サルを知ることはヒトを知ること』
制作記：(高野智)

連載「動物園・水族館だより」スローロリス保全センターのできるまで：

(山梨裕美・根本慧)

特別寄稿 焚火と猿と俳句と：(尾池和夫)

神の鳥，ライチョウの不思議：(牛田一成)

コアラはフクログマ？フクロザル？ ～オーストラリアの有袋類の多様性～：

(早川卓志)

ご寄附のお願い・イベントのご案内

編集後記： 友永雅己



► V. 中部大学創発学術院規程

中部大学創発学術院規程

(平成 28 年 4 月 1 日 制定)

改正 平成 29 年 6 月 21 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は、学校法人中部大学管理運営規則第 27 条第 1 項の規程に基づき、中部大学創発学術院)以下「学術院」という。)に関し必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 学術院は、中部大学の特色及び強みを活かして新たな学術の創発を目指した先端萌芽的な研究を推進することを目的とする。

(学術院長)

第 3 条 学術院に、学術院長を置く。

2 学術院長は、学術院を代表し、その業務を総括する。

3 学術院長は、理事長が任命する。

(運営委員会)

第 4 条 学術院に、その運営に関する重要事項を審議するため、学術院運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、総長が定める。

(研究科等の教育への協力)

第 5 条 学術院は、研究科と協議のうえ、大学院における教育のほか、大学における教育等に協力することができる。

(事務)

第 6 条 学術院に係る事務は、研究推進事務部の協力を得て、事務室において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規程に定めるもののほか、学術院の組織及び運営に関し必要な事項は、学術院長が定める。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 6 月 21 日から施行し、平成 29 年 4 月 1 日から適用する。

2019 年 5 月 31 日発行

発行者 中部大学創発学術院
〒487-8501 愛知県春日井市松本町 1200 番地 16 号館
TEL: 0568-51-9520
<http://www.cuaes.jp/>

編集 荒井迅、牛田一成

印刷所 中部大学サービスドキュメントセンター
〒487-8501 愛知県春日井市松本町 1200 番地 2 号館
TEL: 0568-37-0623
<http://www.chubu.jp/cuservice/print/>